

一般社団法人日本人間工学会 2026 年定時社員総会資料

- I. 2025 年度事業報告
- II. 2025 年度収支決算(案)
- III. 第 10 期代議員及び役員選挙報告
- IV. 2026 年度事業計画(案)
- V. 2026 年度収支予算(案)

一般社団法人日本人間工学会
Japan Human Factors and Ergonomics Society (JES)

2026 年 5 月 23 日
名古屋市立大学(名古屋市)

I.2025年度事業報告

I.会勢報告

{総務担当:河合 隆史、申 紅仙}

【総 数】

(単位:人)

会 員	2025年4月1日	2026年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,202	1,172	75	105

会員資格変更

正会員:	1,110	1,074	48	88	-40	4
準会員:	92	98	27	17	+10	-4

【内 訳】

(単位:人)

支 部	2025年4月1日	2026年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ():支部間 の移動
北 海 道	22	23	3	2	+1 (0)
東 北	42	40	1	3	-2 (0)
関 東	681	659	46	68	-22(0)
東 海	109	104	5	10	-5(+2)
関 西	202	200	10	12	-2(-1)
中国・四国	86	80	5	10	-5(-1)
九州・沖縄	55	62	5	0	+5(+1)
国 外	5	4	0	0	0(-1)
賛 助 会 員	20社 21口	23社 25口	4社 5口	1社 1口	3社 4口

2. 事業報告

2025年度は、一般社団法人日本人間工学会第9期（2024年6月～2026年5月）の2年目として、学会の活性化や会員向けサービスの充実に向けた取り組みを継続した。

委員会主催のセミナーやワークショップの開催に加え、外部ステークホルダーへ向けた認定サポーターやユース会員など、新たな枠組みの設立について検討を行った。さらに、新たな論文投稿・審査システムとして Editorial Manager へ移行を実施した。

- (1) 2025年定時社員総会を2025年5月23日に北九州国際会議場において開催し、2024年度事業報告・収支決算、2025年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 日本人間工学会第66回大会を榎原毅大会長のもと2025年5月21日（水）～23日（金）に北九州国際会議場で開催した。
- (3) 学会誌「人間工学」の第61巻2～6号及び第62巻1号の計6冊を発行した。
- (4) 理事会を2025年4月28日、5月21日、9月19日、12月24日、2026年3月9日の計5回開催した。
- (5) 2025年度論文賞(1件)、研究奨励賞(2件)、グッドプラクティス最優秀賞(1件)優秀賞(2件)、実践論文賞(2件)、功労賞(4名)、トップ10%査読者賞(4名)、標準化貢献賞(2名)の表彰を総会時に行った。
- (6) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者12名、準専門家合格者31名、プラクティショナー49名を新たに得た。その結果、2025年度末現在の認定人間工学専門家は217名、準専門家219名、プラクティショナー68名、シニアCPE19名となった。
- (7) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

7-1) 広報委員会

ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を推進した。グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに、全国大会だけでなく、支部大会や講演会、周辺学会などで広報を行った。

7-2) 編集委員会

学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい、読みたいジャーナルを目指して」を軌道にのせるとともに、人間工学のプレゼンスをより高める学術誌を目指す取り組みを進めた。1) 理論系・実践系論文ごとによる査読基準の継続運用、2) 査読委員制度、3) 迅速査読などの運用は継続しつつ、4) 60周年記念企画として「理事の考えるリサーチイシュー」の運用、5) 実践系論文の投稿呼びかけ、6) サステナブルな編集委員会運営について取り組んだ。また、7) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)、8) 投稿者の利便性向上と円滑かつ迅速な審査体制の整備に向けて、新たな論文投稿・審査システムとして Editorial Manager への移行対応を行った。2025年度に採否が判定された投稿論文は通常投稿が43編(採択23編、不採択12編、採択率66%)であった。

7-3) 国際協力委員会

IEA Council Gathering (Zoom 遠隔、7月24日)、IEA Council Meeting (北京+Zoom 遠隔、10月28日)、IEA Council Gathering (Zoom 遠隔、2026年3月6日)に委員が出席した。また、IEAとの連絡の窓口となり、JESの情報をIEAに展開するとともにIEAの情報をJESに展開した。ACED評議員会(北九州市 日本人間工学会第66回大会と併催、5月21日)の出席、ならびにACED開催に向け会員への情報提供を行った。

7-4) ISO/TC159国内対策委員会

DIS等の規格原案に関する計56件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し(全体会議3回、分科会73回)審議を行った。また、国際会議出席(42回、延べ156名出席)などによってISOにおける人間工学標準の見直し、審議等に寄与した。

7-5) 表彰委員会

表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営のもと2025年度各賞受賞者に対する授与式を行った。2026年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。

7-6) 学術委員会

2023年度に人間工学研究の技術指導依頼のあったエジプト日本科学技術大学の学部長との間で共同研究推進につい

て検討し、二国間共同セミナー開催の申請をした。研究部会の規約を改訂し、学会全体の活動ならびに人間工学の周知普及に向けた部会活動の発展的な寄与を明記した。合わせて部会への依頼内容をあらため、以降の部会運営の指針とした。

7-7) 若手支援委員会

人間工学専門家認定機構と共催で、第 66 回大会にて若手向けワークショップを開催した。同様の企画をまた、認定機構と共催で 11 月東海支部研究大会と 12 月関東支部大会において開催した。

7-8) 企業活動推進委員会

企業における人間工学活動をアクティブにするために、①企業間、産学連携、地域間連携などの情報交換の場として、オンライン形式のセミナーを 4 回(オーガナイザー:広島,兵庫,静岡,東京の公設試)を開催した。企業等での実践的な事例紹介を行い、人間工学の社会実装について参加者と議論を深めることができた。延べ 296 名の参加で盛況であった。②第 67 回大会の大会企画実行委員会に協力し「人間工学製品シンポジウム」について検討、準備を進めた。

7-9) 国際誌検討委員会

特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応)を進めるべく、新規組織体制・運用方法の構想を検討した。

7-10) 普及委員会

外部ステークホルダ向けの事業として、第 66 回大会で「普及委員会認定サポーター・キックオフ・ワークショップ「あなたも一緒に人間工学の輪を広げてみませんか?」」を開催した。第 67 回大会の「ユース会員」新設準備企画!人間工学で広がる知的好奇心—なんで「これ」がお気に入り?ヒミツを探るゲーム体験学習—を企画した。高校生以下の学会枠「ユース会員」を他委員会等と検討した。地域での普及活動として、東海支部と連携し「ナゴヤキャリアタイムサポーター」に「人間工学会東海支部」として「出前授業」の登録を行った。

内部ステークホルダ向け事業として、第 66 回大会でパネル企画「ほっと一息、人間工学—研究者たちの軌跡をたどる—」を実施した。「人間工学のツマミになる読書」(第 2 回)を 2025 年 12 月 15 日にオンラインにて開催した。安全工学シンポジウム 2025 において、「レジリエンス - その考え方を安全に活かすには? - Part 2 -」を企画・運営した。

7-11) 戦略・将来構想委員会

日本人間工学会第 66 回大会において、内閣府の国家標準戦略委員や標準に掛かるアカデミアの連携を進めている担当者を変え「人間工学標準の拡がり」と国家標準戦略に関する企画セッションを実施した。

7-12) PSE 委員会

IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながら JES および BCPE-J 会員のスキルアップについて検討した。

7-13) 利益相反・倫理委員会

利益相反・倫理委員会規程と利益相反規程の案を作成した。倫理指針について国の指針に照らし再改定すべき点を整理した。また他学会の倫理規定や倫理審査受託事業の調査を行った。委員会webページ作成に着手した。

7-14) 人間工学研究標準化推進委員会

人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環としてJISおよびISO等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施した。

7-15) 選挙管理委員会・役員候補者推薦委員会

一般社団法人日本人間工学会第 10 期代議員および役員選挙を実施した。

(8) 5 つのプロジェクト事業を行い、各事業を積極的に進めた。

8-1) AMED プロジェクト

日本医療研究開発機構(AMED)によるヘルスケア社会実装基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」および心の健康投資促進コンソーシアム(ウェルココ)への運営協力、および普及啓発活動として各種講演を行った。

8-2) 厚労科研プロジェクト

日本人間工学会(JES 代表として鳥居塚崇理事長が協議会座長)が中心となり、厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業)を得て「陸上貨物運送業を対象とした Minds 参照型腰痛予防対策ガイドラインの策定と予防対策の普及実装の推進」事業として半年間にわたる介入研究を実施した。

8-3) 人間工学事典発刊プロジェクト

2005年に丸善出版より発行された「人間工学の百科事典(大島正光監修)」は20年が経過している。今の時代に即した人間工学の「全体像」ならびに「展望」を広く社会へ伝えることを目的とした新しい学会公式の「人間工学事典」の発刊に向け検討を進め、項目案を作成した。

8-4) ABWプロジェクト

今年度の事業として、ABWに関する国際標準の原案のうち1件の技術報告書(TR)の発行準備, 1件の国際標準(IS)の提案準備を行った。また、1件の国際標準(IS)の開発準備を行った。

8-5) 子どもICTプロジェクト

学校でのICT活用が進んでいることを背景に、児童生徒や学校教員がICT機器を安全で快適に利用できるように、分かりやすく実用的な情報を伝えることを継続的に推進した。

(9) 支部, 部会

北海道, 東北, 関東, 東海, 関西, 中国・四国, 九州・沖縄の計 7 支部と, 感性情報処理・官能評価部会, 衣服人間工学部会, 医療労働関連 MSDs 研究部会, 航空人間工学部会, アーゴデザイン部会, 海事人間工学研究部会, ワーク・アーゴノミクス研究部会, ビッグデータ人間工学研究部会, システム大会部会の計 9 研究部会が, 多彩な活動を行った。

(10) 関連学術団体等

関連学術団体等の共催・協賛について, 学会誌やHPイベント案内, ニュースレター掲載等を行った。

(11) 学会事務局

学会事務局では, 会員管理業務に加え, JENC 事務局・認定機構事務局業務などを継続して担当し, 一層の効率化と経費節減を図った。さらに, 学会誌や大会講演集の J-STAGE への公開を進め, 学会 HP および JES ニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長:松田 文子,副委員長:下村 義弘}

- (1) 理事会, 支部, 委員会, 研究部会, 事務局などと連携・協力のもと, ホームページ, JESニュースレターを中心に広報活動を推進した。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに, 全国大会での受賞者によるシンポジウムにくわえ, 支部大会や講演会, 人間工学専門家認定機構 (BCPE-J) の会合, 周辺学会などで周知を行った。BCPE-Jおよび表彰委員会との連携により, GP賞の受賞者が総会に参加しやすくなるよう, GP賞の決定時期を早める試みを行った。
- (3) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し, 人間工学の社会への普及に努めるとともに, 学会事務局, 各委員会と連携し, 広報活動を行った。
- (4) 「ピックアップがんばる人間工学家」の活動を人間工学専門家認定機構と連携しておこなった。

3-2. 編集委員会

{委員長:村木 里志,副委員長:近井 学}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 2025年04月:第61巻2号 (pp.081-146) :エディトリアル1編,リサーチ・イシュー2編,実践報告2編,オープンデータ1編,短報2編,技術報告1編 他
 - 2) 2025年06月:第61巻3号 (pp.147-228) :リサーチ・イシュー4編,実践報告1編,原著論文3編 他
 - 3) 2025年08月:第61巻4号 (pp.229-296) :エディトリアル2編,リサーチ・イシュー1編,オープンデータ1編,総説1編,原著論文1編,短報1編 他
 - 4) 2025年10月:第61巻5号 (pp.297-334) :エディトリアル1編,実践報告1編,原著論文1編,短報1編 他
 - 5) 2025年12月:第61巻6号 (pp.335-395) :エディトリアル1編,実践報告1編,原著論文2編,短報1編 他
 - 6) 2026年02月:第62巻1号 (pp.001-060) :エディトリアル1編,リサーチ・イシュー1編,原著論文3編,短報1編 他
- (2) 第9期編集委員会では学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい,読みたいジャーナルを目指して」を軌道にのせるとともに,人間工学のプレゼンスをより高める学術誌を目指す取り組みを進めた。
 - 1) 理論系・実践系論文ごとによる査読基準の継続運用
 - 2) 査読委員制度の運用
 - 3) 迅速査読制度の運用
 - 4) 60周年記念企画として「理事の考えるリサーチ・イシュー」の掲載・運用
 - 5) 実践系論文の投稿呼びかけ(関西・東海支部大会での編集委員会企画プレゼン実施)
 - 6) サステナブルな編集委員会運営(役割分掌の明確化)
 - 7) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)
 - 8) 新たな論文投稿・審査システムEditorial Managerへの移行対応
 - 9) 編集委員会ニュースレターの配信
 - 10) JES66回大会での編集委員会企画「人間工学誌の魅力再発見—企業視点・若手視点から考える論文投稿—」の開催
- (3) 編集委員会の開催
編集委員会を2回(2025年8月,12月),査読委員会を1回開催した(2026年3月)。
- (4) 投稿論文数・採択率・査読期間
2025年度に受け付けた投稿論文は,通常投稿が43編であった。2025年度に採否が判定された通常投稿論文は取り下げ8編を除く35編(採択23編,不採択12編,採択率66%)であった。また,2025年度に判定が確定した論文の1回目査読結果

返却の平均日数は、採択論文20.3日、不採択論文30.4日、投稿から最終判定通知までの平均日数は、採択論文85.8日、不採択論文43.9日であった。

3-3. 国際協力委員会

{委員長:持丸 正明,副委員長:八木 佳子、小谷 賢太郎}

(1)委員会開催

MLによる委員会の開催,そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2)理事会審議・報告

次回台日共同シンポジウム開催についての審議,国際学会の協賛依頼の承認,国際協力委員会のウェブサイトにおける情報公開についての紹介,関連学会の日程と開催方法についての報告など

(3)国際交流

- ・IEA Council Gathering (Zoom 遠隔,7月24日,Zoom 遠隔,2026年3月6日)への出席
持丸委員が遠隔で出席した.IEAの今後の活動についてワークショップ型で議論を行った。
- ・IEA Council Meeting (北京,10月28日)への出席
小谷委員、八木委員、鳥居塚委員が対面で参加。持丸委員長は遠隔で参加した。
- ・ACED評議会(北九州市—日本人間工学会第66回大会併催,5月21日)への出席
鳥居塚委員,持丸委員長が現地で出席し,次回大会や今後の運営方法について話し合った。
- ・会員に向けて国際会議のMLなどによる広報,情報提供

3-4. ISO/TC 159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋,副委員長:横井 孝志}

(1)委員会開催,国際会議出席状況

- ・国内委員会:全体会議3回,分科会73回(メール審議含む)
- ・国際会議出席状況:42回の国際会議に延べ156名出席(ネット会議を含む)

(2)発行規格,投票

<投票>:NP 3件,CD 9件,PWI 3件,DTR 4件,FDIS 7件,DIS 9件ほか

(3)分科会活動(メール審議含む)

- | | |
|----------------------------|----------|
| ・SC1(人間工学の一般原則)&WG | 分科会3回開催 |
| ・SC3(人体寸法と生体力学) &WG | 分科会12回開催 |
| ・SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG | 分科会47回開催 |
| ・SC5(物理的環境の人間工学) &WG | 分科会9回開催 |
| ・アクセシブルデザイン関連会議 | 分科会2回開催 |

(4)サービス人間工学のWG設立と審議開始

・ISO/TC 159/WG 3 Service Ergonomicsの設立が決定し,第1回会合をイギリスにて実施した。コンビーナは産総研伊藤納奈氏。

3-5. 表彰委員会

{委員長:吉武 良治,副委員長:國澤 尚子}

- (1)表彰選考等に係る広報委員会,編集委員会,国際協力委員会,ISO/TC159 国内対策委員会,人間工学専門家認定機構等と連携し,公正な業務運営を行った。
- (2)2025 年定時社員総会において功労賞,論文賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞,トップ10%査読者賞,標準化貢献賞,実践論文賞の授与式を行った。
- (3)関西支部大会,中国・四国支部大会,関東支部大会において,優秀研究発表奨励賞の授与を行った。
- (4)功労賞,論文賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞,トップ10%査読者賞,標準化貢献賞,実践論文賞候補の選考を行うとともに,表彰の準備を行った。

3-6. 学術委員会

{委員長:加藤 麻樹,副委員長 能登 裕子}

2023 年度に人間工学研究の技術指導依頼のあったエジプト日本科学技術大学の学部長との間で共同研究推進について検討し,二国間共同セミナー開催の申請をした。研究部会の規約を改訂し,学会全体の活動ならびに人間工学の周知普及に向けた部会活動の発展的な寄与を明記した。合わせて部会への依頼内容をあらため,以降の部会運営の指針とした。

3-7. 人間工学専門家認定機構

{機構長:榎原 毅,副機構長:仲谷 尚郁}

(1)会員状況 (2026 年 3 月 31 日現在)

認定人間工学専門家	217 名(2025 年度資格取得者 12 名,退会者 5 名)
認定人間工学準専門家	219 名(資格取得者 26 名,退会者 14 名[内 2 名は専門家へ登録])
認定人間工学プラクティショナー	68 名(資格取得者 52 名,退会者 3 名)
シニア認定人間工学専門家	19 名(登録者 0 名,退会者 0 名)
合計	523 名

(2)資格認定試験及び審査実施状況

資格認定試験(A 方式試験)を2回実施(東京 2025 年9月 6 日,大阪 2026 年2月14 日)。

受験 17 名,合格 12 名。

準専門家・プラクティショナーの書類審査を年4回実施。

準専門家:応募31 名,書類審査に31 名合格。

プラクティショナー:応募 54 名,書類審査に 49 名合格,5 名審査中。

(3)定期総会・講演会の開催

講演会 2025 年 4 月 18 日(金) 15:00~16:45

場所 現地(TKP 新宿)とオンラインのハイブリッド開催

講演 1:境 薫(富士通株式会社)「サービスデザインと人間工学」

講演 2:倉部 勇一(日本光電工業株式会社)

「医療機器のユーザビリティ規格改正の概要と人間工学専門家認定機構への期待」

総会 2025 年 4 月 18 日(金) 17:00~17:31

出席者:74 名(現地 30 名,オンライン 44 名),委任状 105 名

(4)幹事会の開催

第57 回幹事会(11 期第 3 回) 2025 年 9 月 6 日(木) 14:45~16:50 TKP 市ヶ谷およびオンライン

第58 回幹事会(11 期第 4 回) 2026 年 2 月 27 日(金) 16:00~17:43 オンライン

(5)再認定の実施

資格更新時期を迎えた認定人間工学専門家、認定人間工学準専門家、認定人間工学プラクティショナーへ再認定手続きについて連絡し、手続きを進めた。

(6)企画シンポジウムの開催

日本人間工学会若手支援委員会、支部とコラボし、若手支援イベントを3回開催した。

・日本人間工学会第66回大会(北九州国際会議場)ワークショップB

開催日時:2025年5月21日(水) 13:00~16:30

タイトル:Ergonomics Crossroads ~出合いはここから~

・東海支部2025年研究大会(名古屋大学・ES総合館)

開催日時:2025年11月1日(土) 12:15~13:45

タイトル:人間工学 de ナカマとつながろう! ~学びと交流が広がるランチョンセミナー~

・関東支部第55回大会(芝浦工業大学豊洲キャンパス)

開催日時:2025年12月14日(日) 12:20~13:50

タイトル:学生・若手支援セミナー ~ 学会ならではの楽しさ ナカマが増える美味しい90分 ~

(7)各支部大会にて機構の資格制度や資格取得メリットのPR・発表を実施

・東海支部2025年研究大会(11月1日、名古屋大学)

・九州・沖縄支部第46回大会(11月29日、TKP博多駅)

・中国・四国支部第56回大会(12月6日、岡山県立大学)

・関東支部第55回大会(12月14日、芝浦工業大学)【機構企画セッション】

タイトル:認定人間工学専門家資格制度の展望

・東北支部研究会(2026年3月28日、東北大学とオンライン)

(8)イベントの開催

人間工学専門家交流会(CPEサロン) 内容:ライトニングトーク&情報交換会

日時:2026年3月11日(水) 15:00~17:20 場所:芝浦工業大学豊洲キャンパス

(9)会報(Web版)の発行

会報 Vol.77(4月17日発行)

Vol.79(11月13日発行)

会報 Vol.78(9月3日発行)

Vol.80(2026年1月30日発行)

(10)人間工学グッドプラクティス(GP)賞への協力

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、5月23日の2025年日本人間工学会定時社員総会にて第13回の表彰を行った。

(11)レピュテーション戦略検討

現行の資格認定制度の課題を抽出し、デジタルバッジなどを活用した専門家資格のプレゼンテーションを高めるような戦略を検討した。

[臨時委員会・担当]

3-8. 若手支援委員会

{委員長:石橋 圭太,副委員長:齋藤 誠二}

人間工学専門家認定機構と共催で、第66回大会時に企画セッション「Ergonomics Crossroads ～出会いはここから～」を開催し、日本人間工学会東海支部2025年研究大会にて『人間工学 de ナカマとつながろう!ー 学びと交流が広がるランチオンセミナーー』、第54回関東支部大会時に企画セッション【学生・若手支援セミナー ～学会ならではの楽しさ ナカマが増える美味しい90分～】を開催した。いずれも、所属を超えて若手の間で自身の研究や就職、仕事等についてディスカッションが行われた。

3-9. 企業活動推進委員会

{委員長:横山 詔常,副委員長:井出 有紀子}

- (1) 人間工学ソリューションセミナーとして、4地域(広島,兵庫,静岡,東京)をリレー形式でつなぎ、オンライン形式で開催した。各回の基調講演では「自動車」、「空調」、「労働」、「鉄道」について実践的な事例紹介があり、公設試より地域企業への支援事例の紹介があった。また、グッドプラクティスデータベースや人間工学家認定試験の情報提供も行き、聴講者を交えて企業における社会実装の課題についてディスカッションした。参加者はのべ296名であった。セミナー終了時のアンケートにて、人間工学活動を活発にするための意見を収集しまとめた。
- (2) 第67回大会の大会実行委員とともに大会企画「集まれ!人間工学製品シンポジウム」を計画している。企業間、産学官連携のために、製品化事例をリアルな場で見て触って体感する場の提供を目指している。

3-10. 国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅,副委員長:村木 里志}

- (1) 日本人間工学会による学術成果の国際発信基盤整備を検討する新規体制について検討に着手した。
- (2) 前期委員会に引き続き、特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応)、③創刊時にオンラインジャーナルへ移行、④IEA Endorsement Journal化、の4つの方向性を具現化する構想の検討を行った。

3-11. 普及委員会

{委員長:松崎 一平,副委員長:和田 一成}

- (1) 委員会(全11名)で、社会に人間工学を広く普及させるため、新たな学会員獲得、および退会者減少を目的に、外部ステークホルダと内部ステークホルダ向けの事業に分けてアイデア出しを行いながら委員会活動を継続した。
- (2) 委員全体を5つのチーム(ABCDE)に分けて議論を進め、実行すべき事業を整理した。委員会としての立ち位置をPVMOM(Purpose, Values, Methods, Obstacles, Measures)で共有し、Slack,メール,オンラインmeetingでの情報共有を行いながら、2つのチームが自律的に事業を進めた。
- (3) ADEチームでは、若年層への普及活動として第66回大会において、若い世代に人間工学を知っていただく取り組み「普及委員会認定サポーター・キックオフ・ワークショップ「あなたも一緒に人間工学の輪を広げませんか?」」を企画し、「スマホケース×人間工学」を題材に議論を深めた。また、地域での普及活動として、東海支部と連携し「ナゴヤキャリアタイムサ

ポーター」に「人間工学会東海支部」として「出前授業」の登録を行った。第 67 回大会の「ユース会員」新設準備企画「人間工学で広がる知的好奇心—なんで“これ”がお気に入り? ヒミツを探るゲーム体験学習—」を企画した。以上の事業に加え、他学会で行われている高校生以下の学会員枠を設ける案が出され、理事会審議や総務・事務・広報・若手支援・関西支部・学校教員の先生方と審議を進めた。名称に関しては会員アンケートを実施し、「ユース会員」が理事会にて承認された。ユース会員の準備委員会を新設することも理事会に承認頂いた。

- (4) BC チームでは、学際領域である学会の価値を再認識頂くための内部ステークホルダ向け事業として、第 66 回大会でパネル企画「ほっと一息、人間工学—研究者たちの軌跡をたどる—」を実施した。学会外からの参加も可能とした「人間工学のツマミになる読書」(第 2 回)を 2025 年 12 月 15 日にオンラインにて開催した。安全工学シンポジウム 2025 において、日本人間工学会からの提案 OS として「レジリエンス - その考え方を安全に活かすには? - Part 2 -」を企画・運営し、現地・オンラインを合わせて約 170 名の参加を得て、理論の実践的活用に関する議論を行った。

3-12. 戦略・将来構想委員会

{委員長:持丸 正明, 副委員長:鳥居塚 崇}

学会の組織的対外活動として行政に対する働きかけが重要であるという 2022 年度策定の基本方針に基づいて、日本人間工学会第 66 回大会において、内閣府の国家標準戦略委員や標準に掛かるアカデミアの連携を進めている担当者を交え「人間工学標準の拡がり」と国家標準戦略」に関する企画セッションを実施した。国としての標準戦略の共有とともに、アカデミアとしての標準への関わり、人間工学標準策定の現状などについて報告をした上で、パネルディスカッションにて議論した。会場からも質問があり、有意義な議論となった。

3-13. PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇, 副委員長 榎原 毅}

IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながら JES および BCPE-J 会員のスキルアップについて検討した。JES 理事長と BCPE-J 機構長が定期的に情報交換を行い、人間工学の発展に向けた施策について検討した。IEA が主催する、会員数 1,000 人を超える学会の会長によるミーティング、IEA に認定されている認定機構の機構長によるミーティングに参加し、各国・各学会との情報共有を図った。

3-14. 利益相反・倫理委員会

{委員長:大須賀 美恵子, 副委員長 鳥居塚 崇}

- (1) 本学会としての利益相反規程の制定に向け、昨年度作成した仮の規程案について委員会で議論をして委員会案を作成した。この規程の親規程となる委員会規程案も作成した。
- (2) 2件の利益相反審査申請について、仮規程に基づいてメール審議し、軽微な修正を求め確認後に承認した。
- (3) 本学会の倫理規程の再改訂について議論し、再改定すべき点を整理した。他学会の倫理規程や倫理審査の受託事業とも連携して、倫理指針や推奨の啓発活動や遵守を支援するしくみを検討した。
- (4) 利益相反および倫理に関する取り組みを広報するとともに、つねに会員の意見やコメントを受け取り、委員会活動に反映する目的で、委員会の web ページ作成に着手した。

3-15. 人間工学研究標準化推進委員会

{委員長:佐藤 洋}

人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環として JIS および ISO 等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施する委員会として、今年度は昨年度と同様に以下の活動を実施した。

(1) JES 会員やプロジェクトで ISO や JIS 等の標準になりそうな研究に対する標準化のための作業へのアドバイスによる支援および ISO や JIS への上程のための活動を推進した。

3-16. 選挙管理委員会

{委員長:小谷 賢太郎}

(1) 第10期代議員選挙を電子投票システム(i-Vote)にて実施した。

(2) 第10期選挙管理委員会(9名)を組織した。

(3) 代議員選挙では、2025年10月20日に選挙案内のメールを発送するとともに投票サイトをオープンし、11月13日23:59に投票を締め切った。開票、諾否確認の結果、第10期代議員116名が確定した。

(4) 役員選挙については従来通り郵送(投票用紙方式)による投票を実施した。

(5) 役員選挙では、2026年1月22日に役員候補者推薦委員会より候補者の連絡があったことを受け、準備を経て、2月5日に役員選挙案内を有権者(第10期代議員)に発送した。投票期限は3月2日(必着)とした。

開票の結果、役員候補者推薦委員会からの候補者全員の当選が確定し、3月4日に候補者へ通知した。

(6) これらの選挙経過および選挙結果を、第78回理事会(2025年9月19日)、第79回理事会(2025年12月24日)、第80回理事会(2026年3月9日)で報告した。

3-17. 役員候補者推薦委員会

{委員長:鳥居塚 崇}

役員候補者推薦委員会内規に基づき、以下のように役員候補者の推薦を行った。

(1) 推薦委員会委員による理事長候補者の推薦(メール審議)

(2) 理事長候補者本人の承諾

(3) 推薦委員会において、理事・監事候補者を推薦

(4) 理事・監事候補者本人の承諾

(5) 候補者の略歴等の作成依頼と内容の確認

(6) 候補者略歴の選挙管理委員会への送付

3-18. 第66回大会担当

{担当:榎原 毅}

2025年5月21日から23日にかけて、日本人間工学会第66回大会を開催した。今大会のメインテーマには“Borderless Ergonomics”を掲げ、身体・認知・組織人間工学といった専門領域の境界、社会文化的性差による社会参画の境界、さらには言語によるコミュニケーションの境界=壁を取り払うべく、多くの仕掛けを施した新しいスタイルの学会開催を試みた。例えば、学問領域の壁を超える試みとして、社会医学系の学会で催されているランチョンセミナー(大会側が提供する昼食をとりながら参加するセミナープログラム)を取り入れた他、子育て中の男性・女性も大会参加のバリアを取り除く

ため、託児所サービスを無料にし、平日開催に伴い休講にできないという参加者にはオンライン配信ブースを設け、大会会場から講義配信を可能とした。国境の壁も超えて海外(韓国,台湾,中国,イタリア,コロンビアなど)から60名以上の現地参加があり、大会参加者は総勢541名、懇親会参加者も約148名で盛会となった。

<開催概要>

(1) 基調講演

鳥居塚 崇 先生(日本人間工学会理事長/日本大学)

「グローバル人間工学 ―システムズアプローチによる人間工学の新たな視点―」

Fátima Díaz Bambula 先生 (University del Valle, Colombia)

「人間工学の先駆的な博士課程プログラム：ラテンアメリカ・カリブ海地域における人間工学研究とトレーニングの推進」

(2) 大会企画シンポジウム

1) 日韓台国際連携シンポジウム ―ウェルビーイングと人間工学―

2) ベルナルディーノ・ラマツツイーニ氏を讃えて -Sitting/Seating の座り心地に関する国際シンポジウム 2025

3) 人間工学標準の拡がりとは国家標準戦略

(3) ランチョンセミナー2件

(4) 公募シンポジウム9件

(5) ワークショップ4件

(6) 一般講演189件(うち2演題取り下げ)

(7) イブニングセッション1件

(8) 協賛・後援企業および団体13件(内訳:協賛11、後援2)

(9) 企業出展・展示14件

<参加者内訳>

大会参加者:541名(うち外国人参加者:60名)

内訳:会員456名(うち事前参加:397名,当日参加:59名)、協賛会員28名、企業出展23名、シンポジスト・招待講師24名、ゲスト(保護者、出版社、協賛企業など)10名

事前登録		当日参加	
正会員	217	正会員	22
準会員	43	準会員	1
非会員一般	76	非会員一般	28
非会員学生	61	非会員学生	8
合計	397	合計	59

[プロジェクト]

3-19.AMED プロジェクト

{担当:榎原 毅,大須賀 美恵子}

日本医療研究開発機構(AMED)によるヘルスケア社会実装基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」への運営協力および心の健康投資促進コンソーシアム(ウェルココ)への運営協力、および普及啓

発活動として各種講演(第61回循環器病予防学会、東大デジタルメンタルヘルス講座、第32回産業精神保健学会、日本心理学会第89回大会、第33回産業ストレス学会ほか)を行った。また、ヘルスケアサービスに係る開発指針の普及及び社会実装に向けた調査・支援事業(AMED 主催、事務局:日本総研)のワークショップ(大阪開催、北九州開催)への運営協力を行った。指針は AMEDE-LIFE ヘルスケアナビ・ポータルサイト(<https://healthcare-service.amed.go.jp/>)および特設サイト(<https://delight.sanei.or.jp/>)にて公開されている。

3-20.厚労省科研プロジェクト

{担当:榎原 毅,鳥居塚 崇}

日本人間工学会(JES 代表として鳥居塚崇理事長が協議会座長)が中心となり、厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業)を得て「陸上貨物運送業を対象とした Minds 参照型腰痛予防対策ガイドラインの策定と予防対策の普及実装の推進」を推進した。関連4団体と連携してMinds 診療ガイドラインに準拠した「陸上貨物運送業の腰痛予防介入ガイドライン」の整備を行う。2025年度は主要陸上貨物運送業7団体・行政(厚生労働省)・アカデミアが集うコンソーシアム協議会を組織し、2回(2025/7/14, 2026/1/27)協議会を開催・意見交換を行った。事業上調査の実施(岩切・杜班),システムティックレビューの実施(谷・石井班)のほか、非ランダム化比較対照試験による半年間にわたる介入研究を実施した。

3-21.人間工学事典発刊プロジェクト

{委員長:鳥居塚 崇,副委員長:榎原 毅}

2005年に丸善出版より発行された「人間工学の百科事典(大島正光監修)」は20年が経過している。今の時代に即した人間工学の「全体像」ならびに「展望」を広く社会へ伝えることを目的とした新しい学会公式の「人間工学事典」の発刊を目指し、出版担当者とミーティングを重ねて章立ての検討を行った。編集幹事を組織し、編集委員会の開催を行った。1項目あたり見開き2枚,8章約250項目案を作成し、各章の編集担当の検討を行った。

3-22.ABWプロジェクト

{委員長:兵頭 啓一郎,副委員長:福住 伸一}

(1) 2025年度実績概要

今年度の事業として、ABWに関する国際標準の原案のうち1件の技術報告書(TR)の開発、1件の国際標準(IS)のNP提案準備を行った。また、1件の国際標準(IS)の骨子の開発を行った。

1)ISO TR 9241-520 Ergonomics of human-system interaction — Part 520: Ergonomics aspect of Activity Based Working

当該ISO TC 159/SC4にてDTRを提案し国際投票により賛成多数にて出版に合意いただいた。しかし、出版前に修正をした方が好ましいと考えられるコメントを多数頂いた。コメントに対応して文書を修正し、年度末までにSCに2nd DTRを提出した。

2)ISO 9241-5xx Ergonomics of human-system interaction — Part 5xx: Ergonomics requirement for Activity Based Working

当該ISO TC 159/SC4/WG3にて提案し、コメントをいただいた。コメントに対応して文書を修正し、NP提案可能な文書を開発した。JENC内部にてレビューの後、SC4に対してJPNCからNP提案をする予定である。

3)ISO 9241-5xx Ergonomics of human-system interaction — Part 5xx: Ergonomics requirement for Activity Based Working implementation

新規の1件について、今年度は規格の骨子を開発し当該ISO TC 159/SC4/WG3に提案した。

JISについては、今年度は海外と日本の差異を検証し、JIS開発の方向性を定めた。

(2)2025 年度実績詳細

本事業では以下の実施方法によりABWの人間工学的要求事項を確立し、国際標準を提案した。

① ABW 委員会を運営した

本事業を行うにあたり、一般社団法人 日本人間工学会傘下に設置した“ABW委員会”を運営した。この委員会にて継続して調査、検討、規格開発を行った。開発した標準について、ISO/TC 159/SC 4対応委員会下にWG 3対応委員会にて議論し、当該国際委員会に提案した。さらに提案後の国際審議への対策を検討、実施した。

また、広報活動として、一般社団法人日本人間工学会の年次会合である人間工学会第66回大会にて、ABW委員会の活動および開発している規格の概要などを発表した。

② ABWに関する国内外の活動の調査、整理

ABWに関連した現状の調査を継続し、分析結果の精度を高めるべく、国内外関係者と討議した。

具体的には、ABW実態調査として日本国内のみならず海外の実施状況について追加調査を行った。

また、日本国内の参考となりそうな会社、オフィスを訪問し、それぞれの会社の組織運営のやり方及びそれに沿ったABWの実施状況などを視察、調査した。その結果、ABWを有効に運用している会社（組織）では、会社（組織）と働く人との信頼関係があり、働く環境（時間、場所など）の選択を働く人の自主性に任せていることが分かった。そのような会社（組織）では、働く人の満足度が高いことも分かった。一方で、ABWを実施する際には、その実施を望まない（これまでの働き方を良しとする）働く人が居ることも分かった。

さらには、ABW（のような形態あるいはそのようなオフィス）を実施したものの、会社（組織）と働く人の関係性は変わらなかったため、ABWは定着せず従前の働き方に戻る例があることも分かった。

これらの調査結果から、ABWを実施する際には

i) 会社（特にトップ経営層）のコミットメント（やり抜く意思 例：制度、評価など）、

ii) 会社と働く人との相互信頼、

iii) 働く人の意識の変化（自由に対する義務、責任の理解）

など、これまでの会社（組織）の運営の仕方とは異なるやり方を確立し、会社（組織）と働く人の相互の理解が必要であること、またABW実施後も継続的に状況をモニターし、その結果に応じて実施形態を変えるなど柔軟な運用が必要であることが分かった。

これらの調査結果を、ABWを実施する際に考慮すべき項目としてTRにて指摘するとともに、ISにて要求事項に盛り込むこととした。

③ ABW実施の効果を評価する指標をさらに調査した

ABWを適用した際の効果を評価するためのさらなる指標を調査し、その調査結果及び有効性を整理・確認した。

具体的には、KPI検証としてこれまで調査した結果から選定したKPIが有効であるかどうかを調査した。選定したKPIにつき、開発中のDTR文書案に記載した。また IS案にそれらKPIを実施後の効果および見直しのための評価指標として記載することとした。

④ ABWに関する技術報告書(TR)の開発を進めた

すでに開発をはじめている技術報告書（TR）につき、当該SC（ISO/TC 159/SC 4）にて頂いた各国からのコメント対応を行い、コメントを反映したDTR原案を開発した。

⑤ ISO/TC 159/SC 4および傘下のWGにおける規格化を進めた

開発したDTR原案を当該WGにて最終確認後、当該委員会ISO/TC 159/SC 4にてDTR投票にかけた。DTR投票に対するコメントにおいて、出版前に対応した方が良いと判断したコメントに対応し、文書を修正の上修正した文書をWG内で回覧し、その文書をもって2ndDTRを行うことにした。引き続き出版まで開発を進める。

⑥ ABWについて調査した結果から、ISO/TC 159/SC 4にて標準策定提案をした

ABW委員会にて国内の識者と打ち合わせし、IS規格原案の開発を進め、その原案をもって当該WGでの新規プロジェクト開発提案を行い、ISO/TC 159/SC 4への新規開発提案(NP提案)を進めた。当該WGにて 国際標

準 (IS) 「ABWに関連する人間工学の要求事項」につき、ドラフト文書を回覧し、参加各国からのコメントを求めた。届いたコメントに対応し、NP投票にかけられる文書の開発を行った。今年度中から来年度早々にNP投票が開始される予定である。

その一環として、ABWに関する人間工学的要求事項の一つであるWorking Person一人一人合った作業環境を提供する必要性を検証した。そのために、作業姿勢の個別対応の必要性について人間工学大会において、作業姿勢の個別対応についてのデモ展示、および関連講演を行い国内識者からの意見を頂いた。頂いた意見を元に、新規に国際標準 (IS) 「ABWを実施する際の人間工学的要求事項 (仮称)」として、ABWを実装する際の各アクティビティに対応した作業環境に対する人間工学的要求事項に関する標準を策定することとした。

⑦ JIS開発

上述のISO規格に対して 我が国の実情に即したJISの開発のための調査を行い、すでに定めた方向性に沿って素案の開発を行った。

⑧ ISO/TC 159/SC 4/WG 3への参加、海外出張

上述のTR、ISについて当該WGにて議論し、開発を進めるため、WG 3会合へ参加した。

4月にドイツで開催されたWG 3の会合には海外出張の上現地参加し、前述のDTR案の説明を行った。DTR案につき、参加国から頂いたコメントに対応した修正を行い、DTR投票に移行することに合意頂いた。また、新規提案の国際標準 (IS) 「ABWに関連する人間工学の要求事項」の素案の説明を行い、参加各国からのコメントを募集した。

10月にイギリスで開催されたWG 3の会合では、前述の新規国際標準 (IS) のドラフト文書および提案書類 (ISO Form4) の説明を行った。これら文書につき、WG 3参加各国からのコメントを募集しコメント対応の上JPNCからSC 4にNP提案を行うことに合意頂いた。

(3)今後の検討事項

① ABW を実施した際の作業環境選択の責任について

これまでのオフィスでの作業とは異なり、ABW では作業環境 (オフィスとは限らない) を働く人が自らの意思で選択する。働く人が自ら選択した作業環境が原因で働く人になんらかの問題が生じた場合 (例えば 腰痛など) に、企業 (雇用者) と働く人 (被雇用者) の間でどのように責任を分担するのかについての議論の必要性が指摘されている。リモートワークを行う際の作業環境についても同様の議論の必要性が指摘されていた。雇用者側がリモートワークを指示した場合についてはある程度議論がされている。しかし、ABW の場合は被雇用者側の意思によって働く環境を選択するため、その選択に対する責任をどう考えるのか の議論が必要であろう。

② ABW を望まない被雇用者に対する対応について

雇用者側がABW (すなわち自主的に作業環境、作業時間などを選ぶ働き方) を推進する際に、そのような働き方 (自主的な働き方) を望まない (すなわち自主的に選択したくない) 被雇用者に対して雇用者側はどのように対応するのかについての議論が必要であろう。

3-23.子ども ICT プロジェクト

{委員長:柴田 隆史, 副委員長:岡田 衛}

- (1) 学校において安全で快適に ICT 機器を利用できるように、児童生徒や学校関係者に分かりやすく実用的な情報を伝えることを継続的に検討した。また、これまでに作成したウェブサイトを活用して、学校教員などに委員会活動を紹介した。
- (2) 子どもの ICT 機器活用に関する人間工学課題について情報交換し、第66回大会において「学校での ICT 活用の現在と未来」と題したシンポジウムを開催して学校における課題と対策について議論した。

4.支部活動

4-1.北海道支部

{支部長:小林 大二}

(1) 支部役員会

日時:2025年7月11日

場所:オンライン開催

議題:

- ・2024年度北海道支部事業報告,2024年度決算報告
- ・2025年度北海道支部事業計画,2025年度北海道支部予算執行計画
- ・2025年度北海道支部総会の実施計画
- ・その他

(2) 2025年度支部総会

日時:2025年9月18日

場所:公立千歳科学技術大学

議題:

- ・2024年度北海道支部事業報告,2024年度決算報告
- ・2025年度北海道支部事業計画,2025年度北海道支部予算執行計画
- ・その他

(3) 2025年度支部大会

日時:2025年9月18日~19日

場所:公立千歳科学技術大学

基調講演:田中 孝之 先生(北海道大学)

セッション:学生セッション,一般セッション,懇親会を対面にて開催,参加者40名

4-2.東北支部

{支部長:高橋 信}

(1) 支部役員会

1) 第1回役員会:

- ・日時:2026年3月28日(土)13:00~13:30
- ・場所:東北大学青葉山キャンパス(仙台市)
- ・議題:次回研究会,その他

(2) 支部研究会

1) 第1回研究会:

- ・テーマ:ものづくり現場における人間工学 Part IX
- ・企画:山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)・本多薫(山形大学)
- ・日時:2025年12月20日(土)15:00~18:00
- ・見学場所:山形テルサ(山形市)
- ・趣旨:主たるテーマを「ものづくり現場における安全」とし,モノとコトの二つの視点による事故防止についてディスカッションできればと考えております.地域の企業の方々にもご参加いただくことで,様々な経験を持つ研究者や実務家と情報共有

を図りながら、人間工学や経営工学が現場の安全にどのように寄与できるか、また、その知見を他産業へどう展開できるかについて意見交換を行えればと思っています。

・趣旨説明と問題提起:

「地域のものづくり現場から見る自動化・ロボット化と安全への課題 ～モノとコトの視点による事故防止～」
山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)

・講演: 最近の労働災害の発生状況とこれまでの経験から感じたこと

講師 佐藤 重哉 氏(一般社団法人 山形労働基準協会)

・講演2: 成功と失敗をデータベース化する持続可能な生産改善のアプローチ

～作業者の身体的負荷を軽減するからくり装置開発を例に～

2)第2回研究会:

・テーマ: Learning from All Operations(全てのオペレーションからの学習)の実現に向けて

-成功と失敗から効果的に学ぶための分析手法-

・企画: 狩川大輔(東北大学)・高橋信(東北大学)

・日時: 2026年3月28日(土) 14:00~17:15

・場所: 東北大学青葉山キャンパス(仙台市) (オンラインによるハイブリット開催)

・趣旨: 複雑システムのさらなる安全性向上のためには、個人や組織が、自他の経験からより良く学べるようにすることが欠かせません。人間工学会東北支部研究会は、過去2年間にわたり、「Learning from All Operations(全てのオペレーションからの学習)の実現に向けて」をテーマとして、心理学的研究から得られた知見や、航空・鉄道・建設業の各分野における実践例をご紹介いただきました。今回の研究会では、特定のイベントあるいは日々の業務の中から教訓を引き出すための「分析手法」に焦点を当て、講師の先生方から、2つの分析手法とその基礎となっている考え方、および具体的な活用方法についてご講演いただきます。それらを踏まえて、「全てのオペレーションからの学習」を実現するために、人間工学ができる貢献について参加者の皆様とご一緒に考える機会にできればと思います。

・趣旨説明と講師紹介 狩川大輔(東北大学)

・講演1: ImSAFER 分析手法とヒューマンエラー対策の考え方

講師 河野 龍太郎 氏(株式会社 安全推進研究所/自治医科大学名誉教授)

・講演2: 偶然の創発を必然にするための機能共鳴分析手法(FRAM)の活用

講師 吉澤 厚文 先生(東京電力ホールディングス株式会社/長岡技術科学大学客員教授)

4-3. 関東支部

{支部長: 松田 礼}

(1) 第55回関東支部大会・第31回卒業研究発表会

1) 開催日: 2025年12月14日(日)

2) 会場: 芝浦工業大学 豊洲キャンパス(東京都江東区)

3) 大会長: 武藤憲司 先生(芝浦工業大学)

4) 参加者 206名(正会員:64, 非会員:22, 学生:120)

5) 演題数件(一般演題9セッション 33件, 卒業研究11セッション 44件, 企画セミナー2件)

6) 特別講演: 1件「かわいい・感性・人間工学」

講師 大倉典子 先生(中央大学 研究開発機構 機構教授/芝浦工業大学 名誉教授)

(2) 支部委員会, 支部総会

1) 開催日: 2025年12月14日(日)

2) 場所: 芝浦工業大学 豊洲キャンパス

(3) 見学会(主催: 海事人間工学研究部会, 共催: 関東支部)

1) 日時: 2026年3月7日(土) 13:30~15:00

2) 場所: 株式会社東洋信号通信社 横浜・川崎港グループ(神奈川県横浜市)

- 3)内容：ポトラジオの見学，業務説明
(4)ニュースレターの発行：
 メーリングリストにより支部大会・総会の案内，見学会・講演会の案内を発行

4-4. 東海支部

{支部長:横山 清子}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
 開催日時：2025年 5月10日(土) 15:00-15:30
 開催場所：名古屋市立大学 滝子キャンパス(対面)
 講演会：斎藤 真 先生(三重県立看護大学)、大西 範和 先生(三重県立看護大学)
- (2) 支部役員会
 第1回支部役員会 2025年5月10日(土) 14:00-14:45 対面
 第2回支部役員会 2025年10月9日(木) 16:30-18:00 オンライン(Zoom)
 第3回支部役員会 2026年 3月10日(火) 18:00-19:00 オンライン(Zoom)
 第4回支部役員会 2026年 4月 9日(木) 17:00-17:30 オンライン(Zoom)
- (3) 日本人間工学会東海支部 2025年研究大会の開催
 開催日：2025年 11月 1日(土)
 開催場所：名古屋大学・ES 総合館(名古屋市)
 大会長：名古屋大学 教授 青木 宏文 先生
 特別講演：「AI と人間との責任分担(自動運転の技術と社会制度をめぐって)」
 演者：名古屋大学 教授 武田 一哉 先生
 概要：一般講演 19 演題，参加者 78 名
 企画セッション：
 人間工学専門家認定機構共催イベント
 「人間工学 de ナカマとつながろう! 学びと交流が広がるランチョンセミナー」
- (4) 人間工学測定技法講座の開催
 講演テーマ：査読者からみた測定結果の報告の基本
 講師：朝日大学 保健医療学部健康スポーツ科学科 教授 庄司 直人 先生
 開催日時：2025 年 12月 23日(火) 15:00~16:30
 開催方法：Zoom を利用したオンライン講座
 参加者：15名
- (5) 名古屋キャリアタイムサポーターへの登録
 名古屋市教育委員会が主催する、市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のキャリア教育の授業で実施する、出前授業、職業体験、職場訪問等への協力機関として登録

4-5. 関西支部

{支部長:有馬 正和}

- (1) 企画・行事等
 1) 2025 年度支部通常総会
 日 程：2025 年 5月 18 日(日) 13:00~14:00
 会 場：大阪公立大学 I-site なんば

議案：2024年度支部活動報告,2024年度支部収支報告,2024年度支部監査報告,2025年度支部事業計画,
2025年度支部予算計画,2025～2026年度 会計監事の選任

出席者数：15名,委任状 55件

2) 2024年度優秀発表賞 表彰式 (2025年度通常総会終了後に開催)

受賞者(50音順)

- ・逢坂 凌(摂南大学)：乳児の吸啜時における舌運動を模擬した搾乳器の有効性の評価
- ・小川 詩織(近畿大学)：視野制限がタッチスクリーンのタップ操作に及ぼす影響に関する基礎的検討
— 晴眼と視野狭窄の比較 —
- ・庄司 匠杜(関西大学)：VR空間における坂道歩行時の疑似ステップによる昇降感覚への影響の評価

3) 春季特別企画：高校生人間工学実践ワークショップ

日程：2025年5月18日(日)10:30～16:30(支部通常総会と併催)

テーマ：「デザイン・機能・使いやすさ・事業化などを考慮したスマホケースを考えて発表しよう！」

参加高校生：22名,学生サポーター：7名

■開催報告：人間工学 第61巻 第5号 pp.288-289, (2025)

4) 関西デジタルヒューマン懇話会 第1回交流会

日程：2025年8月25日(月)14:00～17:00

会場：兵庫県立工業技術センター

廣川敬康氏(近畿大学),平田一郎氏(兵庫県立工業技術センター)による事例紹介,意見交換,
兵庫県立工業技術センターの見学などを実施した。

5) 2025年度 第1回見学会

日程：2025年9月10日(水) 14:00～17:00

見学先：パナソニックホールディングス株式会社 プロダクト解析センター

松下幸之助歴史館,ものづくりリズム館 パナソニックミュージアム

参加者数：15名

■開催報告：人間工学 第61巻 第6号 p.377, (2025)

6) 2025年度 第1回人間工学異分野連携交流サロン

日程：2025年9月19日(金) 13:30～17:00

会場：滋慶医療科学大学

テーマ：「AIで支える“安全”と“効率”の両立」

基調講演：「AIで支える“安全”と“効率”の両立を目指して — 現場・研究・教育の視点から —」

島崎 拓則 先生(滋慶医療科学大学 医療科学部 准教授)

基調講演の後,4名1組の小グループでAI活用の実践・課題の共有を目的とするグループワークを実施した

参加者数：23名

■開催報告：人間工学 第61巻 第6号 pp.373-374, (2025)

7) 2025年度 第2回人間工学異分野連携交流サロン

日程：2025年10月24日(金) 13:30～17:00

会場：大阪公立大学 I-site なんば

テーマ：「人間工学領域や研究・業務におけるAIの役割」

講演・実演：「AIを現場で使う力を身につける — 業務・研究への応用と実演」

島崎 敢 先生(近畿大学 生物理工学部 准教授)

参加者数：14名

■開催報告：人間工学 第61巻 第6号 pp.375-376, (2025)

8) 2025年度日本人間工学会関西支部大会

開催日：2025年12月13日(土)

会場：京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス(京都市左京区)

大会長：来田 宣幸 教授(京都工芸繊維大学)

企画セッション 2 件, 一般講演 34 件, 企業展示 4 社

参加者数: 103 名 (うち学生 41 名), 懇親会参加者数: 35 名

■開催報告:人間工学 第 62 巻 第 2 号 掲載予定, (2026)

9) 特別企画: 高校生人間工学研究発表会

日程: 2025 年 12 月 13 日(土) 13:00~14:30(支部大会と併催)

発表タイトル:

1. 自習室の混雑を回避しよう!~入退室管理システムの応用~ (大阪府立高津高等学校 3 名)
2. アプリ「DeChain」で SNS 利用を自制する方法を探る (大阪府立高津高等学校 2 名)
3. 肩からずり落ちにくいトートバックの研究 (大阪府立東高等学校 4 名)
4. 人の踏みつけによる裸地化の過程とその解析 (京都府立嵯峨野高等学校 1 名)
5. 万博 Steam 教育プログラム「いのちの遊び場クラゲ館」での体験型ワークショップデザインの探究:
ハギレを活用した布クラゲづくり (大阪府立泉尾工業高等学校 1 名)
6. 万博 Steam 教育プログラム「いのちの遊び場クラゲ館」での体験型ワークショップデザインの探究:
地球キーホルダーで奏でる未来 (大阪府立泉尾工業高等学校 2 名)

参加高校生: 12 名, 参加者(聴講者)数: 約 80 名

■開催報告:人間工学 第 62 巻 第 1 号 pp.55-56, (2026)

10) 2025 年度 第 3 回人間工学異分野連携交流サロン

2026 年 1 月 8 日(木) 13:30~17:00 大阪公立大学 I-site なんば

テーマ: 「ロボットと人間工学」

講演「人・ロボット系のシステム開発現状と今後の展望」吹田 和嗣 (大同大学)

講演「社会課題解決に向けたソーシャルロボットの取り組み」蓮沼 仁志 (川崎重工業株式会社)

講演「高齢者や女性が成人男性並みに力仕事をできる装着ロボットの普及」八木 栄一 (PAI)

参加者数: 26 名

■開催報告:人間工学 第 62 巻 第 3 号 掲載予定, (2026)

11) 2025 年度 第 4 回人間工学異分野連携交流サロン・関西デジタルヒューマン懇話会 第 2 回交流会

日程: 2026 年 2 月 26 日(木) 13:30~17:00

会場: 大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス

講演: 「ダイバーの安全・安心を見守るヒューマンモニタリングシステムの研究開発
~デジタルヒューマンとの融合を目指して~」有馬 正和 (大阪公立大学)

講演: 「協力はいつ個人を超えるのか?
~自発的な役割分化が生む協調パフォーマンス向上と人支援ロボットへの展開~」
高井 飛鳥 (大阪公立大学)

講座: デジタルヒューマン講座(その 1) 廣川 敬康 (近畿大学)

参加者数: 25 名 (オンライン参加を含む)

■開催報告:人間工学 第 62 巻 第 3 号 掲載予定, (2026)

12) 2025 年度 第 2 回見学会

2026 年 4 月 7 日(火) 13:30~16:30

株式会社 イトーキ 滋賀工場

AP センター, チェア工場現場, エルゴノミクス研究室の見学および情報交換会を実施した。

参加者数: 17 名

■開催報告:人間工学 第 62 巻 第 3 号 掲載予定, (2026)

(2) 会議等

1) 2024 年度会計監査

日程: 2025 年 4 月 3 日(木) 15:30~17:00

2) 第 1 回評議員会・役員会合同会議

日程: 2025年5月18日(日)12:00~13:00(支部通常総会と併催)

3) 第1回支部大会実行委員会・第1回幹事会

日程: 2025年7月3日(木)15:00~18:05

4) 第2回支部大会実行委員会

日程: 2025年11月13日(木)18:00~18:50(オンライン開催)

5) 第2回幹事会(メール審議:選挙管理委員の選任)

日程: 2025年12月10日(水)~12日(金)

6) 第2回評議員会・役員会合同会議

日程: 2025年12月13日(土)11:45~12:45(支部大会と併催)

7) 2026~2027年度支部長・副支部長・評議員選挙(電子投票)

期間: 2025年12月15日(月)~2026年1月5日(金)

8) 第3回幹事会(メール審議:支部大会優秀発表賞の選出)

日程: 2025年12月19日(金)~25日(木)

9) 第3回評議員会(メール審議:支部大会優秀発表者の承認)

期間: 2025年12月26日(金)~2026年1月9日(金)

結果: 審議の結果,下記3件の発表に対して優秀発表賞の授与が承認された

・尾崎大晟(兵庫県立大学)

注視点変化にともなう視覚誘発電位の空間的変化の関数近似と注視点推定への応用

・木戸菜々佳(京都工芸繊維大学)

柔軟性を向上させたVRアバタ提示が前屈ストレッチングに与える影響

・田河琴音(摂南大学)

姿勢推定用AIカメラを用いた介護動作による熟練者と初学者の類似度評価

回答者数: 18名

4-6.中国・四国支部

{支部長:石原 恵子}

(1)支部代議員会開催

第1回:2025年12月6日 第56回支部大会会場 岡山県立大学にて対面開催

2024年度決算、2025年度予算・事業計画、支部大会優秀発表賞表彰内規制定、次期(第10期)支部代議員承認、次期(第10期)支部長承認

(2)支部理事会開催

第1回:2025年8月7日,オンライン開催

2024年度の事業最終報告と2025年度支部事業計画、支部表彰規定制定について審議、支部大会準備状況報告)

第2回:2025年12月6日(第56回支部大会会場),岡山県立大学にて対面開催

第10期支部代議員選出、第10期支部長選出、2026年度第57回支部大会の大会長と会場を協議

第3回:2025年12月25日オンライン開催

優秀発表賞の決定

第4回:2026年4月9日オンライン開催

2025年度決算案、監査報告、第10期支部理事選出

(3)支部大会開催

第56回大会 2025年12月6日 岡山県立大学(岡山県総社市)

大会長:齋藤誠二先生(岡山県立大学)、実行委員長:武末 慎先生(岡山県立大学)

特別講演:五福明夫先生(岡山県立大学学長)「機能モデルを基盤とした運転員の状態に整合した支援情報の生成と提示」

(4)第10期本部代議員選挙および支部代議員選挙

電子投票により2025年10月20日から11月13日を投票期間として実施

(5)2025年度第56回支部大会優秀発表賞表彰

3名の受賞者に対して2026年1月26日にオンライン表彰式挙行。

(6)企業見学会開催

第1回2026年2月10日 香川大学創造工学部鈴木桂輔先生研究室および産業技術総合研究所四国センター(香川県高松市)

企画・運営:鈴木桂輔先生(香川大学)、横山詔常先生(広島県立総合技術研究所)

第2回2026年3月3日 ダイヤ工業株式会社(岡山県岡山市)

企画・運営:門脇章人先生(ダイヤ工業株式会社開発部門)

(7)講演会および小シンポジウム 2026年3月27日 岡山県立大学(岡山県総社市)およびオンラインによるハイブリッド開催

企画・運営:村田厚生先生(University of Information Technology and Management, Poland)

会場運営:大山剛史先生(岡山県立大学)

講演:Prof. Konrad Szocik (University of Information Technology and Management, Poland) “Ethical challenges of human space missions: constraints, rationale, and risks”

小シンポジウム話題提供:Prof. Konrad Szocik (UITM, Poland) “Ethical, bioethical, and ergonomics issues in future human space exploration”

4-7.九州・沖縄支部

{支部長:小崎 智照}

(1)2025年度支部代議員会

1)月 日:2025年11月25日(火)

2)会 場:オンライン

3)議 題

- ・2024年度会計報告
- ・2025年度活動計画と予算案
- ・その他

(2)2025年度支部総会

1)月 日:2025年11月29日(土)

2)会 場:TKP博多駅筑紫ロビジネスセンター(福岡市博多区博多駅中央街4-8)

3)議 題

- ・2024年度会計報告
- ・2025年度活動計画と予算案
- ・その他

(3)九州・沖縄支部第46回大会

1)月 日:2025年11月29日(土)

2)会 場:TKP博多駅筑紫ロビジネスセンター(福岡市博多区博多駅中央街4-8)

3)大会長:小崎智照(福岡女子大学国際文理学部)

4)発表演題数:特別講演1件,企画セッション1件,一般講演12件

5)参加者:24名

6)特別講演

- ・人間工学の実践知をつなぐ:企業研究・デザイン教育・UX実装

中島浩二(西日本工業大学デザイン学部 教授・テクノロジーアート研究所 所長)

7) 企画セッション

- ・認定人間工学専門家資格制度の展望

榎原毅（人間工学専門家認定機構）、仲谷尚郁（人間工学専門家認定機構）、松岡敏生（人間工学専門家認定機構）

8)表彰

- ・最優秀発表賞

「視覚障害者支援デバイスのボタン押下から音声出力までの許容応答時間の調査」

山口己太郎(九州工業大学大学院生命体工学研究科)

- ・優秀発表賞

「LED 照明の点滅の視覚的影響評価 -運動錯視を指標としたデューティ比の検討-」

古屋陽菜(福岡女子大学国際文理学部)

5.研究部会活動

5-1.ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

(1)活動主テーマ

- 1) 今あるデータを活用した人間工学
- 2) 「+人間工学」活動の開始
- 3) 研究部会活動およびビッグデータ活用ノウハウ集

(2)主な活動内容と手段・方法

- 1) 年間を通じて幹事間の情報交流を電子メールで行う。
主にイベントの開催検討のため、電子メールでの打ち合わせ・連絡を複数回行った。
- 2) Web サイトを活用した情報発信
Web サイト準備中である。
- 3) 日本人間工学会の年次大会にてシンポジウムを企画する。
企画できなかった。
- 4) 講演会・談話会等をオンラインにて開催する。学会員外・研究部会員外は参加費の有料化を検討する。
以下の講演会を開催した。
 - 4-1) 第6回ビッグデータ人間工学講演会(2025/07/23)
講演 野球選手のための GPS・心拍数データを活用した個別化コンディショニング
講師 窪田 敦之氏(順天堂大学 スポーツ健康科学部 スポーツ医学研究室 前任准教授)
場所 オンライン
参加者 34名(関係者・学生含む)
学会誌掲載: 人間工学 2025 Vol.61, No.5(297-334) 報告者:三坂昇司氏(流通経済研究所)
 - 4-2) 第8回ビッグデータ人間工学勉強会(2026/03/19)
講演 大規模健康診断データを活用した疫学的分析から考える人間工学研究
講師 谷 直道氏(産業医科大学 産業生態科学研究所 人間工学研究室 講師)
場所 オンライン
参加者 14名
付記 活動テーマである「今あるデータを活用した人間工学」の事例として、企業の健康診断情報をテーマとした。
なお、参加費の有料化については実現できなかった。

(3)成果

- 1) 年2回の講演会を開催した。
- 2) Web サイトへの過去の活動状況報告掲載の準備を行った。

5-2.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:石原 正規}

(1) 活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2) 手段・方法

- 1) 第34回システム大会 [2026年3月18(水)、19日(木)] の感性・官能セッションへの参加・発表 (詳細はシステム大会部会より報告)
- 2) 幹事会、幹事間のメール連絡等による、部会活動について議論、情報共有、審議
- 3) 学会誌「人間工学」への論文投稿

(3) 成果及び展望

- 1) 第34回システム大会に参加し、若手研究者による発表(4件)を組織、支援した。また、大会参加者との交流を通し、部会活動のネットワークを広げた。
- 2) 研究会の開催、関東支部大会への参加等について、今後の活動可能性を模索した。2026年度以降の部会の継続について議論し、継続申請することにした。また、部会ホームページの更新を行なった。
- 3) 部会幹事メンバーによる研究を学会誌「人間工学」に投稿し、論文掲載された [佐藤壮平・石原正規 2025 ポイントライトウォーカーの動きに対する性別判断 — 動画フレームレートおよび光点輪郭の影響について — 人間工学 61(6) 345-354.]

今後も引き続き、講演会/研究会を開催し、知識や経験の情報共有を通しての社会貢献につなげたい。また、若手の研究や、萌芽的研究に関する発表・(指導的な指摘も含めた)議論ができる場を提供し、学会誌への論文投稿につなげていきたい。

5-3.衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

(1)活動目的とテーマ

人と衣服と環境の関連に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深化に資する機会を提供するとともに、この領域の研究者の拡大、育成をはかることを目的とする。2012年度よりは「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を継続している。具体的には、衣服のサプライチェーンの側面より、環境に配慮しかつおしゃれな着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、SDGs 達成への貢献を視野に入れた研究活動、啓蒙活動に努めている。

(2)活動内容

1) 研究例会

衣服の側面から持続可能な社会について考えるための話題提供と知識の啓発を目的とする。今年度は「伝統と現代の価値観の融合」を念頭に、ファッション産業の多様な価値の実践や、高品質な織物産業の継承と革新をテーマにした例会を2回開催した。第1回例会は一般公開のオンライン講演会、第2回例会は工場見学とした。

第1回例会

- ・開催日: 2025年11月15日(土)16:30~18:00 Zoomによる開催
- ・講演者: PROJECT SOLIT 代表 田中美咲氏
- ・演題: SOLITにおけるオール・インクルーシブ(All-inclusive)な社会への取組とファッション
- ・参加者: 衣服人間工学部会会員と一般 約40名
- ・概要:

多様な人も動物も地球も、誰も、どれも取り残さない社会において「経済圏」をつくりだすことをミッションに、障がい、ジェンダー、セクシュアリティ、体型、年齢など、さまざまな背景をもつ人々との共創を通してファッションのあり方を再考しているPROJECT SOLITの活動について、事例を提示しながら、わかりやすく解説していただいた。

講演では、ファッションにおける三つの課題として、身体的ハードル(衣服の設計・構造)、環境的ハードル(購買体験)、社会・心理的ハードル(広告表象や風潮)が示された。主導する人も追従する人に分かれるのではなく、当事者参加型のデザインの実現をめざして試行錯誤する姿勢を知り、真の意味のインクルーシブの意味を考える機会となった。

また、私たちは人間工学的な視点を重視しがちであるが、当事者と共にデザインした製品を幅広いサイズ展開でセミカスタマイズの形で受注生産しているなどの取り組みを通して、伝統と現在の価値観を融合させる上で、自分らが捉える「現代の価値」とは何かを明確にすることの難しさと重要性を強く認識する貴重な機会となった。

第2回例会

- ・開催日：2026年3月23日(月) 大月駅集合 9:40~17:30
- ・見学会のテーマ：伝統が息づく織物のまちで未来を感じる
- ・参加者：20名

・工場見学

見学概要：

甲斐絹の産地として知られる山梨県富士吉田市・西桂町周辺の織物産業に焦点を当て、地域を代表する織物工場5社を見学した。当地域は、1000年以上の歴史をもつ「甲斐絹」の高品質な伝統技術を継承しつつ、現代の生活者のライフスタイルや多様化した価値観に応じたものづくりを探求している地域である。

絹に加えて、麻や羊毛、ポリエステルなどの素材を取り入れ、一つの工場で複数の工程を担う仕組みを構築することにより、高品質な技術を継承しつつ現代的な価値を具現化した「ハタオリマチ」として、産地ブランド化や直販に力を入れている様子を実感することができた。いずれの工場も、富士山麓の水の恵みを生かした織物であること、また地域とともに機織りを営んできた歴史を大切にしていることが印象的であった。

見学先：

- ・**有限会社テンジン**：絹織物の技術を礎にしたリネン専門のファクトリー。古いシャトル織機を駆使しながら、昔ながらのセルビッチリネンを織り続ける工場と、リネン織物の魅力をいかした商品が展示されたショールームを見学した。
- ・**宮下織物**：地域で育まれた伝統技術の粋を集めて、ウェディングドレスを中心に舞台衣装のための生地を製造している。検品の様子と多数の生地見本を見学した。
- ・**武藤株式会社**：極薄の絹織物を織り続けてきた技を継承し、絹やカシミア、オーガニックコットンやリネンなど自然素材の極細糸を心地よい肌触りに混紡して、スローな織機を使うことで空気を含んだ柔らかな風合いの布を生産している工場を見学した。
- ・**株式会社川栄**：絹織物の伝統を継承し、最新鋭の織機を用いて高級ネクタイ向けの絹織物を製造している。紋意匠専門スタッフも擁し、紋意匠と製造のワンストップ体制を実現している社内を見学した。1200冊以上の製造サンプルも保存されていた
- ・**榎田商店**：織物の製造から傘の組み立てまで一貫して生産することができる、世界で唯一の老舗織物工場。織物を織り、それを裁断して傘に仕上げるまでの一連の工程を見学した。

2) 役員会

Zoomによる役員会を5回開催した。他に役員会に準じたメール会議および例会担当者間での打合せを2ヶ月に1回くらいのペースで行った。

- ・第1回役員会：2025年5月12日(月)
- ・第2回役員会：2025年5月30日(金)
- ・第3回役員会：2025年12月12日(金)
- ・第4回役員会：2026年1月23日(金)
- ・第5回役員会：2026年3月13日(金)

(3) 成果と展望

インクルーシブファッションをテーマとしたオンライン講演会により、衣生活における包摂性と多様なニーズへの対応の重要性を共有することができた。また、地域に根ざした織物産業の見学を通して、伝統技術の継承と現代的価値の創出が両立している実践を確認した。参加者より、「インクルーシブな商品の開発にどのようにして当事者を巻き込むのかをもっと知りたい」「歴史や伝統を大切にしながら新たな挑戦を続け、高品質な製品を生み出していることを知り感銘を受けた。」などの声がよせられた。今後は、産地の知見と新たな社会的視点を踏まえ、衣服人間工学の研究・教育・社会実装のさらなる展開が期待される。

5-4. 医療労働関連 MSDs 研究部会

{部会長:松崎 一平}

(1)活動目的とテーマ

多くの医療従事者が痛み=筋骨格系障害 (MSDs)を我慢しながら働いている現状がある。本研究部会は、「すべての医療従事者を守る快適な労働環境をつくる」ことをパーパスに掲げ設立された。ステークホルダ関与、システムズアプローチ、バックキャスト等、IEAの改訂コア・コンピテンシーを意識し、医療従事者、学会員、企業の方々と活動を推進している。

(2)手段・方法

- 1) 医療労働関連 MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発
- 2) 医療労働関連 MSDs に関する教育機会の提供(研究会の開催)
- 3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携
- 4) 医療労働関連MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信
- 5) その他、本研究部会趣旨に必要と思われる諸活動の実施

(3)成果

昨年に続き、医療労働に関する話題提供と議論を目的とした一般公開の研究会「医療 MSDs 懇話会」を開催し、海外の動向も含め情報共有・活発な議論を行った。研究部会ホームページ上で、日本人間工学会の会員に人間工学(学術的・技術的知見、歴史、課題、学習方法)をわかりやすく解説いただく企画として、2024年1月開始した研究部会員を対象とした医療労働関連 MSDs 研究部会の今後の取り組み「医療と私の人間工学 100Tips」は、現在 Tip20 まで掲載している。2025年度は特に、様々な内部組織・外部団体とのジョイントシンポジウム・共催セミナーを企画し開催した。

1) 第6回 医療 MSDs 懇話会

・開催日:2025年3月29日(木)HCD-Net 共催セミナー「カテーテル治療から手術ロボットの人間工学」

・座長・斎藤 真 氏(三重県立看護大学)、川平 洋 氏(自治医科大学)

講演1「島津製作所の医療機器開発における人間工学の取り組み ~血管撮影システムの操作性向上~」

水本 徹 氏(株式会社島津製作所)

講演2「腹腔鏡下手術における助手の一部機能を代替する手術支援ロボット」

宮本 寛之 氏(朝日サージカルロボティクス株式会社)

講演3「総論:カテーテル治療、ロボット支援下手術、外科医の立場から」

篠原 一彦 氏(東京工科大学)

概要:UXラボ見学、ディスカッションも盛況であった。人間工学誌に開催報告を掲載した。

2) 理学療法×作業療法×人間工学—日本理学療法士協会ジョイントシンポジウム—

・開催日:2025年5月22日(木)15:50~17:50 小倉

趣旨説明 松崎 一平 氏(山下病院)

司会 佐々木 嘉光 氏(公益社団法人日本理学療法士協会副会長)、谷 直道 氏(産業医科大学産業生態科学研究所人間工学研究室)

基調講演

日本理学療法士協会のMSDs予防の取り組み

佐々木嘉光 氏(公益社団法人日本理学療法士協会副会長)

講演

1 整形外科クリニックで働く理学療法士が取り組むMSDs予防について

太田 佳孝 氏(医療法人恭純会 服部整形外科)

2 病院で働く理学療法士における活動と研究—医療従事者のMSDs予防を考える—

山田 翔太 氏(名古屋市立大学医学部附属西部医療センター)

3 センシングシステムを用いたMSDs関連研究の紹介

酒井 一輝 氏(産業医科大学産業生態科学研究所人間工学研究室)

4 理学療法士と協働して行った内視鏡室スタッフへのMSDs対策教育

貞島 健人 氏(佐賀大学医学部内科学講座 消化器内科)

5 理学療法士・作業療法士への人間工学教育

吉野 智佳子 氏(千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート・帝京平成大学健康医療スポーツ学部)

・概要: 世話人の榎原毅先生が大会長をされた日本人間工学会第66回大会にて、日本理学療法士協会とのジョイントシンポジウムを開催した。海外では理学療法士が筋骨格系障害の予防に活躍している現状があり、理学療法士、作業療法士の果たす役割は大きく、今回は「理学療法×作業療法×人間工学」分野の教育・研究・臨床で活躍するシンポジストとともにパーパス実現を見据えて、未来志向で議論を行った。後援は、産業保健人間工学会、日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会、産業保健リハビリ研究会、日本産業理学療法研究会。30名以上が参加され、ディスカッションも盛況で、人間工学誌に開催報告を掲載した。

3) 第7回 医療 MSDs 懇話会

・開催日:2026年1月27日 web 開催

医療 MSDs 懇話会 医療従事者の負担を“見える化”する非接触センシング技術

・司会・前田佳孝 氏(自治医科大学)・高村卓志 氏(国際医療福祉大学熱海病院)

話題提供

鎌倉快之 氏(大阪工業大学)身体動作を可視化する- カメラによる非接触姿勢推定の応用可能性 -

大岩孝輔 氏(長岡技術科学大学)非接触バイタルセンシングによるストレス評価 医療現場への応用をめざして

・概要: 非接触での姿勢推定・バイタルセンシングの基礎原理をわかりやすく解説いただき、MSDs研究への応用可能性について議論した。人間工学誌に開催報告を投稿した。

4) 世話人会

オンライン(Zoom)による世話人会議を下記の通り開催した。その他、打ち合わせなどのメール会議を適宜行った。

・第9回世話人会議:2025年4月16日

事務局のタスク増加への対応や、第2期以降の継続を見据えて、新世話人募集方法の具体案が議論された。

・第10回世話人会議:2025年7月29日(木)

新世話人を部会員から自薦・他薦で募り、6名が承認された。内視鏡耳鼻科の研究協力に関して議論が行われた。

16名の世話人を、デジタルメディア管理チーム、イベント企画チーム、姿勢 change チームの3チームに分けて、各チームでメール、web 会議で研究部会の事業を推進することとなった。

5) 部会員

日本人間工学会会員を問わず、医療従事者、学会員、企業の方々へ幅広く案内をすることで本学会員34名を含む部会員 80 名(2026年3月)の組織となっている。世話人会・メール会議にて密に協議し、懇話会での活発な議論、組織拡充を推進することができた。

(4)問題点・展望

研究部会 HP を充実させることで、規約の公開、関連学会・研究部会などとの共同企画や、医療と私の人間工学

100Tips等の教育コンテンツ、機器情報の収集と発信を進める環境が整った。持続可能な研究部会を目指して多様性に配慮した部会員の募集を進め、学会内だけでなく、外部団体、医療従事者、行政との連携を意識して活動を推進していく。

5-5.航空人間工学部会

{部会長：船引 浩平}

(1) テーマ

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 第106回例会（公開講座）

日本人間工学会と共催で以下内容のとおり例会を開催した。

<例会概要>

日時：2025年6月18日（水）13:00-17:10

形式：対面式

場所：野村不動産天王洲ビル2階ウイングホール

講演内容：

「空旅のユニバーサルデザインに関するJAXAの取り組み」 JAXA 安岡 哲夫様

「SWIMが支える次の航空交通管理」 JCAB 龍 幸信様

「自発報告制度VOICESの歩みとこれから」 JCAB 矢野 俊彦様、ATEC 船曳 孝三様

「A comparison of aviation safety culture and training models between US and Japan. What we can learn from each other. (航空分野における日米の安全文化および訓練モデルの比較.互いから学べること.)」

FAA Adrienne Johnson Krunich 様

参加者数：93名

今年度の例会も幅広い分野からご参加いただき大変好評であった。講演資料については、昨年度より引き続き電子媒体を基本とし、環境、コスト面からの対応を図った。

2) 施設見学会

今年度は東京地下鉄株式会社総合研修訓練センター（安全繋想館）の見学を実施した。受け入れ人員の関係から、航空人間工学部会の委員、幹事から募集を行った。

<東京メトロ総合研修訓練センター（安全繋想館）見学実施概要>

日時：2026年2月17日（火）

場所：東京メトロ総合研修訓練センター（安全繋想館）（東京都江東区新木場）

参加人数：10名

見学内容：中目黒慰霊地訪問、霞ヶ関駅「鎮魂プレート」、安全繋想館

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示を行った。例会（公開講座）での講演資料については、ホームページからのダウンロードを基本とし、希望

者がいれば、例会後でも講演資料の提供が可能となった。

4) 委員会・幹事会の開催

A. 委員会

今年度は、3回の委員会を開催し、年度の計画、実施、次年度の計画などの決議を行った。

① 第83回委員会（2025年5月13日、10:00-11:30）、Zoomによるオンライン形式

議題：

- ・今年度の委員会メンバー確認、2025年度計画予定
- ・2025年度予算
- ・第106回例会（公開講座）開催準備確認
- ・部会活動条件の実施について
- ・今後の予定

② 第84回委員会（2025年11月19日、10:00-11:30）、Zoomによるオンライン形式

議題：

- ・委員会メンバー最新情報確認
- ・2025年度収支状況
- ・第106回例会（公開講座）開催報告と振り返り
- ・第107回例会（公開講座）に向けた準備
- ・施設見学会について
- ・部会継続条件の実施状況
- ・今後の予定

③ 第85回委員会（2026年3月24日、10:00-11:30）、Zoomによるオンライン形式

議題：

- ・施設見学会振り返り
- ・第107回例会（公開講座）開催準備
- ・2025年度事業報告・2026年度事業計画
- ・今後の予定

B. 幹事会

3回（5、11、3月）開催

幹事会を開催し、例会及び見学会の開催可否や形式等について議論を行い、部会活動を円滑に進めるとともに、幹事の意見を部会活動に反映させることができた。

(3) 成果

今年度も対面を基本とする活動を実施することができた。例会（公開講座）では、幅広い分野からのご参加いただき、講演に対する活発な質疑、会場での会員同士の会話、情報共有が行われている様子がうかがわれた。

施設見学会では、東京地下鉄株式会社総合研修訓練センター（安全繋想館）を訪問し、過去の事故・事件を風化させずに次世代につなぎ、日々の安全に活かすための安全教育を学ばせていただいた。

ホームページの運営では、例会の講演資料の電子化運用等、環境に配慮をした対応を進めることができた。

5-6.アーゴデザイン部会

{部会長:郷 健太郎}

(1) 目的と活動テーマ

本部会は、モノづくりやサービス開発において、人間工学とデザインを融合した学際領域である「アーゴデザイン」を対象に、

産学連携による研究および情報発信を行うことを目的としている。

2025 年度は、「ビジョンと社会実装—ビジョン創出とその社会実装に向けた方法論の研究—」をテーマとして活動を実施した。本年度は、フューチャーエクスペリエンス (FX) の確立を目指し、実践的手法と事例を通じた研究活動を展開した。特に、従来から取り組んできたビジョン提案型デザイン手法との関係性を明確化しつつ、アーゴデザインの実践的展開に取り組んだ。また、社会環境との整合性および実現可能性の観点から、人間工学研究のさらなる重要性を再認識し、「ビジョンと社会実装」に関する研究および議論をアーゴデザインの視点から継続的に行った。さらに年度末には、近年の AI の社会的浸透を踏まえ、アーゴデザイン部会と AI の位置づけについて集中的な検討を行った。

(2)部会運営と主な活動内容

- ・部会員：82 名(正会員 65 名, 学生会員 17 名, 2026 年 3 月 1 日現在)
- ・活動概要：2025 年度は、コンセプト事例発表会 1 回, 見学会 1 回, FX フォーラム 1 回, 合宿研究会 1 回, 幹事会 8 回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 2025 年度コンセプト事例発表会開催 (2025 年 9 月 18 日)

於: 芝浦工業大学 参加者: 41 名
口頭発表 3 件
ポスター発表 16 件

2) 2025 年度見学会開催 (2025 年 11 月 18 日)

於: トラスコ中山プラネット埼玉、日本工業大学 工業技術博物館 機械実工学教育センター 参加者: 10 名
・オートストアやバトラーといった最新鋭のロボット設備に加え、少量多品種に対応する在庫管理の仕組みなどの最先端かつ人間工学に基づいた改善と工夫の蓄積を見学した。
・動態保存された SL や歴史的な工作機械の数々を間近で見学した。

3) HCD-Net 事例発表会 + Future Experience (FX) フォーラム開催 (2026 年 2 月 28 日)

於: 株式会社島津製作所 本社
FX フォーラムとして、発表 4 件を実施。
「AI 浸透深化の時代におけるデザイナーの役割: 山梨大 ADP プログラム」
郷 健太郎 氏 (山梨大学)
「ビジョンから社会実装へ – デザインプロセスにおける生成 AI の活用」
西内 信之 氏 (東京都立大学システムデザイン学部情報科学科)
「ビジョンから社会実装へ – ライフプロジェクトというアプローチ」
山崎 和彦 氏 (X デザイン研究所、武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所)
「個人が出来るビジョンの社会実装—お囃子保存会で次世代を応援するプロセスと実践」
佐藤 公一 氏 (フリーランス)

4) 2025 年度合宿研究会 (2026 年 3 月 13 日-14 日)

於: 湘南国際村センター 参加者: 20 名
<テーマ> 「アーゴデザイン部会が取り組むビジョンの社会実装 ~AI とアーゴデザイン~」
<実施内容>
講演および発表 5 件:
「BtoB 向け UX リサーチにおける生成 AI 活用の一例 – 実務での試行錯誤から」
中川 浩伸 氏 (株式会社島津製作所 総合デザインセンター デザインユニット UX 革新グループ)
「デザインプロセスの評価における生成 AI の活用① —UI の自動ヒューリスティック評価と改善支援—」
田中 裕 氏 (東京都立大学 システムデザイン学部 情報科学科 西内研究室)

「デザインプロセスの評価における生成 AI の活用② ―視線情報に基づく思考発話予測―」

池田 滯奈 氏(東京都立大学 システムデザイン学部情報科学科 西内研究室)

「AI時代のこれからの企業のデザインを貫く5つの思想」

山崎 和彦 氏(X Design Academy, X Design Lab.)

「ビジョンから優れた経験価値の創出へ導く体験設計」

高橋 克実 氏(ホロンズ株式会社)

- ・アイスブレイク:自己紹介、AIとのかかわりかた(私と AI)
- ・ブレインストーミング A「アーゴデザインと AI」
- ・結果の共有:発表(まとめ) ミニワーク
- ・ブレインストーミング B「アーゴデザインと AI:特に社会実装の観点から」
- ・結果の共有:発表(まとめ)

5)その他の活動

- ・FX_WG(担当幹事:高橋,上田,石山,吉井,笠松,郷,佐藤,西内,早川,細田,山崎)
- ・アーゴデザイン未来 WG(担当幹事:石山,笠松,西内,西平)
- ・ホームページ運用(担当幹事:早川,吉井)
- ・学生会員に対する指導,啓発活動(担当幹事:笠松,西内,細田,吉武)
- ・会員及び幹事会メーリングリスト及び,ホームページホスティングを ergo-design.org にて運営

(3)成果と展望

- ・社会・環境的視点を含んだ「フューチャーエクスペリエンス(FX)」の概念を提唱し,ビジョン構築手法と実践,社会実装に関する研究を深めてきた.2025年度は特にアーゴデザイン部会活動のなかでの AI の位置づけを再検討した.
- ・FXワーキンググループにおける各自の取組の紹介や合宿研究会を通じて,ビジョンの社会実装に向けたアプローチの重要性を確認した.社会実装への活動を自分ごととして扱う重要性を共有した.
- ・引き続き,部会で得られた知見をより広く一般に共有・公表すべく,書籍化などの検討も進める予定である.

5-7.海事人間工学研究部会

{部会長:村井 康二}

(1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから,他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している.更に,仕事として関わりが無くても,非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる.しかしながら,これら海事の分野において,人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない.そこで,本研究部会の活動を通して,人間工学を海事分野に広く普及させ,海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる.

(2)手段・方法

1)見学会の開催

船舶の安全な入出港を支援する海岸局であるポータルラジオの一つであり,昨年末に設置場所を移動した横浜ポータルラジオの見学会を株式会社東洋信号通信社の協力を得て実施した.

2)幹事会の開催

実施した見学会を利用し,幹事会を実施し,2026年度の事業計画等についての検討を行った.

(3)成果

見学会を通じて、最新の海事関連産業に関する情報を発信し、他分野の人間工学専門家や研究員と海事分野における人間工学について意見交換することができた。

(4) 展望

人間工学を専門とする研究者や技術者が海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な企画セッション、見学会、座談会等を開催する。更に、当研究部会の活動を広く知ってもらうために、当学会以外にも積極的に情報を発信して行く。

5-8.ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:井出 有紀子,青木 和夫}

(1) テーマ

在宅勤務やオンライン会議などのオフィスワークでの新しい働き方や環境も踏まえつつ、ポストコロナ時代の働き方や定年延長や人生100年時代、多様性雇用を見据えて、働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに、知識の普及を図ることを目的とする。

(2) 活動内容

1) 幹事会&部会 2025年5月12日(Zoom), 2025年12月1日(Zoom) の2回,幹事会を開催した。

2) 第66回大会において企画セッションを実施した。(2025年5月22日)

・ テーマ:「高齢者の体力と運動能力」(司会:青木和夫)

①「年齢別に見た体力測定値」 山田 クリス孝介氏(東海大学)

②「高齢者を対象とした運動教室を通して」 村木 里志氏(九州大学)

3) ワーク・アーゴノミクス研究部会企画シンポジウム報告

青木和夫:「高齢者の体力と運動能力」人間工学 61(4):283-284

4) 第67回大会における企画セッションを検討し、以下のテーマで実施することとした。

・ テーマ:「高齢者が安全に働くために」

①「高齢労働者の安全対策について」 松田文子氏(大原記念労働科学研究所)

②「高齢者の転倒とその防止について」 内山 靖 氏(名古屋大学)

(3) 成果と展望

2025年度は、第66回大会の企画セッションで高齢者の体力についてシンポジウムを開催し、近年の高齢労働者の増加にもなっている問題となっている、働くために必要な体力や、運動能力について検討した。次年度にはさらに高齢労働者の安全対策についてシンポジウムを開催することとした。改訂を予定していた「在宅ワーク/在宅学習実施時のFAQ(2020)」については特に新しい知見がないことから、改訂を見送った。

5-9.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ:

人間工学をシステム論的視点から研究・議論することを目的として発足した本部会は、本年度で34年目を迎えた。部会名が示すとおり、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会など、多様な専門分野が有機的に連携する特性を活かし、幅広い分野の専門

家・研究者が参画する定期大会（システム大会）も本年度で34回を数えるに至った。

本年度の大会は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催され、延べ100名を超える参加者のもと、2日間にわたり多角的かつ活発な議論が展開された。とりわけ、いずれの専門分野においてもAIへの関心は極めて高く、分野横断的な深い議論が実現したことは大きな成果である。

さらに、特別講演（夜話）では、AIの専門家である三枝亮先生（神奈川工科大学 先進AI研究所 所長）を招聘し、最先端の知見をご紹介いただく貴重な機会を得たことにより、本大会は一層有意義なものとなった。また、本大会への参加を契機として日本人間工学会への若手入会希望者を得ることができ、ささやかながら学会活動への貢献も果たすことができたと考える。

なお、本大会の開催にあたっては、複数回にわたり幹事会を開催したため、ここに併せて報告する。

(2)部会運営と主な活動内容:

○システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時：2025年09月20日(土)15:00~16:00

方法：ZoomによるOnline会議

議題：第33回システム大会報告・第34回システム大会開催方法の討議 等

・第2回システム大会幹事会

日時：2025年11月15日(土)15:00~15:40

方法：ZoomによるOnline会議

議題：夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：2026年02月28日(土)15:00~15:40

方法：ZoomによるOnline会議

議題：システム大会プログラム作成および大会開催最終確認

(3)展望：

AI技術の急速な進展により、人と人工物の関係は大きな転換期を迎えている。知的作業を代替・拡張するシステムの普及は、人間の能力を拡張する一方で、新たな不安や倫理的課題も生み出している。今後は、人がシステムを一方的に制御するのではなく、双方の特性を相補的に活かしながら共生関係を構築していく視点が不可欠である。とりわけ、介護・医療・福祉分野においては、人と共生するシステムやロボットの活用を通じて、現場課題の解決と新たな価値創出が期待される。同時に、学習するシステムの責任の所在や、人の感情・痛みへの理解といった本質的課題についても、継続的な議論が求められる。

本部会としては、こうした潮流を踏まえ、若手研究者の積極的な参画を促しつつ、分野横断的な連携をさらに強化し、開かれた学術活動を推進していく。また、英文機関誌（Journal of Ergonomic Technology: JET）の継続的な発行をはじめとする国際的発信力の向上にも注力し、日本人間工学会のさらなる発展に貢献していく所存である。

IV.2026年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当: 申 紅仙、山田クリス孝介}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、健やかな人間の営みと、物理・組織・社会環境が調和した持続可能な社会システムの構築に寄与することを目指す。
- (2) 第67回大会を横山清子大会長のもと2026年5月23日(土)~24日(日)に名古屋市立大学(愛知県名古屋市)で開催する。
- (3) 2026年定時社員総会を2026年5月23日(土)に名古屋市立大学 滝子キャンパスにおいて開催し、2025年度事業報告・収支決算、2026年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第68回大会を中西美和大会長のもと2027年5月29日(土)~30日(日)に慶應義塾大学 矢上キャンパス(神奈川県横浜市)にて開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) 学会主催の有料セミナーを開催する。
- (7) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、学術委員会、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、新会員制度設計委員会、企業活動推進委員会、普及委員会、戦略・将来構想委員会、PSE委員会、利益相反・倫理委員会、人間工学研究標準化推進委員会、第67回大会担当および第68回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (8) 【広報】ホームページ、JESニュースレターを中心に広報活動を推進する。人間工学のパンフレットを刷新し、広く配布する。WEBリニューアルに向けて具体的な検討を行う。
- (9) 【編集】学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい、読みたいジャーナルを目指して」を掲げ、これまで取り組んできた実践系論文の投稿推進策を軌道にのせる。学会誌「人間工学」の第62巻3~6号および第63巻1~2号の計6冊を発行する。
- (10) 【認定機構】認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年2回実施、また人間工学準専門家および人間工学プラクティショナーの各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナー等を開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (11) 【国際】IEA(国際人間工学連合)および ACED(アジア人間工学評議会)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAからの情報の国内展開、およびJES情報の海外発信などを行う。韓国、台湾の各人間工学会との国際連携セッションを企画する。
- (12) 【JENC】ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学 JIS 規格の作成、普及・啓発のための活動を行う。TC159, TC159/SC1, TC159/SC3, TC159/SC4, TC159/SC5 関連の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。サービス人間工学に関する国際標準について規格提案に資する活動を行う。
- (13) 【表彰】2026年度各賞の授与式を行う。また、2027年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 【学術】日本学術会議、学術政策等の動向をウォッチするとともに、関連する他学会等との連携のための窓口として活動を行う。

- (15) 【若手支援】若手会員を支援するため、若手会員の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行う。
- (16) 【新会員制度設計】日本人間工学会における会員層の拡大および将来世代の参画促進を目的として、新たな会員制度の設計および運用体制の構築を検討する。
- (17) 【企業活動推進】これまでの活動実績を踏まえ、参加企業のニーズに沿ったイベント等を企画・実施し、企業における人間工学分野の取組みの継続的な活性化を図る。
- (18) 【普及】社会に人間工学を広く普及させるため、新たな学会員獲得、および退会者減少を目的に、外部ステークホルダ(企業・教育現場・各団体組織・自治体・行政)と内部ステークホルダ向けの事業に分けて、戦略的・効果的な普及活動を行う。
- (19) 【戦略・将来構想】日本人間工学会第67回大会にて、厚生労働省安全課の官僚や、企業、アカデミアの関係者を交え「高年齢者の労働災害防止」に関する企画セッションを実施する。
- (20) 【PSE】IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながらJESおよびBCPE-J会員のスキルアップについて検討する。
- (21) 【利益相反・倫理】本学会としての利益相反規程について、昨年度作成した規程案についてパブリックコメントを聴取し、必要に応じて改訂し、規程を策定する。
- (22) 【人間工学研究標準化推進】人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環としてJISおよびISO等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施する。
- (23) 5つのプロジェクト事業を行う。
- (24) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。衣服人間工学部会、医療労働関連MSDs研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、感性情報処理・官能評価部会、システム大会部会の計9研究部会で活動を行う。
- (25) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長:下村 義弘,副委員長:松岡 敏生}

- (1)理事会,支部,委員会,研究部会,事務局などと連携・協力のもと,ホームページ,JES ニュースレターを中心に広報活動を推進する.重要ニュースのお知らせ,学会主催/協賛等のイベント案内,公式見解を含む社会発信,学会誌に掲載されたりサーチ・イシューのフォロー等を,WEB サイトと各種メディアも活用し,幅広い人々の協力を得ながら行っていく.
- (2)グッドプラクティスデータベース(GPDB)の取り組みを継続するとともに,掲載事例を増加させ社会的認知度を高めるために,全国大会だけでなく,支部大会や講演会,人間工学専門家認定機構(BCPE-J)の会合などで積極的に呼び込む.また,大会での展示の優遇や登録証の発行により,企業内実績としての価値向上を図る.GPDBの社会的認知度の向上と企業へのリスペクトを具体化する場として,JES全国大会においてシンポジウムを企画する.
- (3)「人間工学の総合データベース(ERGO Directory)」の更新,拡充を図るために,全国・支部大会や講演会,BCPE-Jの会合などの機会を活用する.
- (4)人間工学のパンフレットをPDF媒体として発行し,支部大会や講演会,BCPE-Jの会合,関連領域学会,各種学校(大学,高校,専門学校)などに周知するとともに,人間工学の体系化・教育・普及促進に向けて関連する新領域も含めた広報を行う.
- (5)WEBリニューアルにおいて具体的な検討を進めていく.

2-2. 編集委員会

{委員長:村木 里志,副委員長:笠松 慶子,近井 学}

- (1)学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う(紙媒体およびJ-Stage掲載).
- (2)学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい,読みたいジャーナルを目指して」に従って活動する.特に,「理論」と「実践」の両輪を扱うジャーナルとして特に「実践」系の論文の投稿促進策を展開する.
- (3)新たに導入した投稿・査読審査システム(Editorial Manager)の円滑な運用を図るとともに,搭載機能の有効活用を推進する.
- (4)編集委員会を年4回程度,査読委員会を年1回程度開催する.
- (5)編集委員会ニュースレター等を活用し,誌面コンテンツが会員を中心に,より多くの人に伝わるよう取り組む.
- (6)表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)等を行う.
- (7)学会誌の発行形態に関し,引き続き検討を行う.
- (8)編集委員の負担軽減に取り組み,サステナブルな編集体制を構築する.
- (9)その他,編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる.

2-3.国際協力委員会

{委員長:小谷 賢太郎,副委員長:Loh Ping Yeap}

(1) IEA 評議会への出席

(2) ACED 評議会への出席

上記(1)(2)については国際協力委員が JES からの council member として 3 名分の投票権執行

(3)国際協力活動およびその他

1) IEA アワード申請への協力

2) IEA 内の各委員会への協力

3) ACED 内の各委員会への協力

4) 学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加

5) 学会誌への国際学会参加報告の執筆

6) JES-ESK-EST の国際連携セッションの企画, 運営

7) そのほか, JES 活動に関する海外への情報発信, 国際協力委員会ウェブサイトの更新・広報など

2-4.ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:小林 吉之,副委員長:横井 孝志}

ISO/TC159(人間工学)分野の規格の提案,作成,審議,ならびに人間工学JIS規格の作成,普及・啓発のための活動を行う。

(1)会議:全体会議3回,分科会延べ30回前後開催予定

(2)日本主導で審議が予定されている項目

・「サービスの人間工学」

新規提案をISO/TC159に提出し,提案が通り,新たなWGをTC159直下に設立,またはSC1/WG5にて規格 ISO/AWI 21372 Ergonomics — General ergonomic requirements and recommendations for serviceを開発予定。

・WG2(高齢者・障害者の人間工学)

・ISO/TR 22411-2 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)

・SC1(人間工学の基本原理)

・ISO/WD 27502 Ergonomics – Human-centred design of products and services – Principles and activities

・SC3(人体寸法や姿勢・動作に関する領域)

・ISO/WD 25915-1 Basic human locomotion speed for ergonomic design -Part 1 definition and measurement of normal and steady walking speed

・SC5(物理環境の人間工学)

・ISO/CD 24505-2 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations — Part 2: For people with defective colour vision and people with low vision

・ISO/DIS 24505 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision

(3)国際会議予定

- ・TC 159 関連会議,TC159/SCI 関連会議,TC159/SC3 関連会議,TC159/SC4 関連会議,TC159/SC5 関連会議ほか

2-5. 表彰委員会

{委員長:鳥居塚 崇}

- (1)表彰選考等に関係する広報委員会,編集委員会,国際協力委員会,ISO/TC159 国内対策委員会,人間工学専門家認定機構等と連携し,公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2)功労賞,論文賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞,トップ10%査読者賞,標準化貢献賞,実践論文賞の選考を行い,各受賞者に対する授与式を行う。
- (3)大会における優秀研究発表奨励賞の選考を行い,受賞者の所属する支部大会において授与する。
- (4)表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに,受賞者や表彰事例の周知等,学会内外への情報提供に努める。
- (5)本学会以外の IEA 等国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6.学術委員会

{委員長:狩川 大輔,副委員長:庄司 直人}

日本学術会議,学術政策等の動向をウォッチするとともに,関連する他学会等との連携のための窓口として活動を行う。

- (1)部会間の連携を促進し,研究リソースと情報の共有体制の構築を検討する。
- (2)全国大会と学会の連携により,会員の研究リソースの共有に寄与する提案を検討する。
- (3)日本学術会議,JSPS,他学会との連携による学際的研究シーズの発掘に寄与する提案を検討する。
- (4)その他,人間工学に寄与する学術的発展的提案の具現化を検討する。

2-7.人間工学専門家認定機構

{機構長:松田 文子,副機構長:仲谷 尚郁}

- (1)資格認定試験及び審査を実施する。
 - ・資格認定試験(A方式試験)を年2回,東京と大阪会場で実施する。
 - 2026年9月5日(土) 東京開催
 - 2027年2月13日(土) 大阪開催
 - ・準専門家・プラクティショナー審査を年4回程度実施する。

- (2)定期総会,講演会,幹事会を開催する。

講演会

日時:2026年4月24日(金) 15:00~16:45 現地(TKP市ヶ谷)とオンラインのハイブリッド開催

下記2名の認定人間工学専門家による講演

講演 1: 平田 一郎(兵庫県立工業技術センター)「兵庫県立工業技術センターにおける人間工学支援」

講演 2: 太田 智子(コニカミノルタ株式会社)

「コニカミノルタにおけるデザイン思考の浸透～顧客起点の活動として～」

総会

日時: 2026年4月24日(金) 17:00~17:45 現地とオンラインのハイブリッド開催

幹事会(2~3回開催予定)

(3)再認定を促進するため、個別に更新手続きを案内する。

(4)日本人間工学会内外に認定機構の資格制度及び活動紹介を行うため、支部大会等で発表及びPRをする。

(5)若手支援イベントを開催する。

2026年5月 日本人間工学会第67回大会(予定)

(6)機構ホームページ、会報、人材DB(ERGO Directory)、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。

(7)CPE セミナー、CPE サロン(交流会)等のイベントを充実させる。

(8)「人間工学グッドプラクティス賞」(GP 賞)の審査に積極的に協力する。

(9)レピュテーション戦略(現行の認定制度の見直しおよびデジタルバッチの導入検討)を行う。

(10)HPに資格取得をPRするページを新たに作り、具体的にどう役に立つのかという事例を掲載する。

[臨時委員会・担当]

2-8.若手支援委員会

{委員長:齋藤 誠二,副委員長:土井 俊央}

(1)若手会員の研究やキャリア形成を支援するための企画を開催する。

(2)学生や若手が学会活動に継続的に参加できるような仕組みを検討する。

(3)他委員会、支部大会と連携した支援企画を開催する。

2-9.企業活動推進委員会

{委員長:境 薫,副委員長:藤岡 英二}

これまでの活動実績を踏まえ、参加企業のニーズに沿ったイベント等を企画・実施し、企業における人間工学分野の取組みの継続的な活性化を図る。

(1)アクションプラン

・企業における人間工学活動の実践状況や課題について、継続的に情報を収集する。

・学会大会等においてシンポジウムや交流型イベントを企画・実施し、企業の人間工学活動の活性化につなげる。

(2)活動成果の顕在化

・学会大会や学会ホームページ等を通じて、委員会活動の内容および成果を広く会員に発信する。

・活動を通じて得られた知見や意見を整理・集約し、学会本部や他委員会と連携しながら、学会活動および企業における人間工学実践に資する情報提供を行う。

2-10. 新会員制度設計委員会

{委員長:前田 佳孝,副委員長:鳥居塚 崇}

日本人間工学会における会員層の拡大および将来世代の参画促進を目的として、新たな会員制度の設計および運用体制の構築を検討する。これまで、ワーキンググループにおいて予備的検討を行い、高校生以下を対象とした新たな会員区分の名称を「ユース会員」とする方針が整理された。本委員会では、これらの検討結果を踏まえ、制度設計の具体化および持続可能な運用体制の構築に向けた検討を行う。また、他委員会と連携しながら、新会員制度を通じた学会活動の活性化および会員基盤の拡大につながる仕組みを検討する。

(1)手段・方法

1) ユース会員制度の設計

高校生以下を対象としたユース会員制度について、会員資格、活動内容等を整理し、制度実装に向けた具体案を作成する。

2) 新会員運用体制の検討

属人的な運営に依存しない支援体制の構築を目指し、会員による支援の仕組みを含めた持続可能な運用モデルを検討する。

3) 大会企画・他委員会との連携

普及委員会、各学会支部等と連携し、ユース会員向け企画などを通じて、本制度の導入に向けた企画の実施と普及の可能性を検討する。

4) 会員基盤の拡大に関する検討

ユース会員制度の検討を踏まえ、多様な世代が学会活動に参画できる会員制度のあり方について、中長期的観点から検討を行う。具体的には、定年退職に伴う退会者も多いことから、シニア会員制度(仮称)および代議員制度についてもあり方を検討する。

(2)期待される成果

ユース会員制度の設計を具体化し、高校生以下の若年層が人間工学に関心を持ち、学会活動に接する機会を創出する。また、本制度の検討を通じて得られた知見を今後の会員制度の発展に活かし、会員基盤の拡大を通じて学会の持続的発展に寄与することが期待される。

2-11. 普及委員会

{委員長:松崎 一平,副委員長:和田 一成,倉岡 宏幸}

人間工学は社会に広く浸透し、関連領域専門分野・学会等も普及しているが、すべての人がその恩恵を受けていない現状がある。人間工学基本概念の価値は不変であり、社会や産業界に欠かせない学問として広く啓発・発信し続ける必要がある。

社会に人間工学を広く普及させるために、普及委員会は、JES内部ステークホルダと協働し、企業・教育現場・各団体組織・自治体・行政といった外部ステークホルダを巻き込み JES を活性化するための戦略的・効果的な普及活動を行う。

(1)手段・方法

1) 多様性を考慮した組織体制の整備

研究分野、支部会、所属組織、ジェンダー、年齢など、多様性を重視した委員メンバーの組織体制を構築しているが、高校生とのワークショップなどを全国に広げるために大学生・大学院生など若手を中心にした普及委員会認定サポーターの募集を進める。

2) 人間工学に関する教育機会の提供(セミナー開催)

高校生やシニアの方も含め、多分野の研究者が参加できる企画を新会員制度設計委員会(仮名称)と連携し、各委員会、研究部会等と協力して行う。会員同士の読書体験を共有し、新たな研究シーズの発見に寄与するオンラインサロン「人間工学のツマミになる読書」を継続開催する。また、新たな教育企画の発案・実施を通じて、人間工学の裾野拡大と多様な参加機会の創出を図る。

3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携

関連学会・研究会との共催企画を進め、多分野の研究者をJES入会に繋げるような取り組みを行う。また、企業等との連携も含めて収益事業化のモデルケースを目指す。会員の研究内容や学会活動の魅力などを紹介する企画を継続する。

4) その他、本研究会趣旨に必要なと思われる諸活動の実施

「ナゴヤキャリアタイムサポーター」(名古屋市)制度等を人間工学会員が活用できることを目指し進める。その他、義務教育・高等教育レベルにおける人間工学教育環境の整備・実施など。

(2)期待される成果

人間工学領域に関心のある研究者と問題意識を共有し、人間工学の基礎・実践を学ぶ機会を広範に提供することにより、関連領域の学問との交流を活性化し、若手研究者の勧誘を期待できる。人間工学の発展および学会員の増員は、「すべての人に人間工学が寄り添うやさしい社会」の実現に寄与する。

2-12.戦略・将来構想委員会

{委員長:持丸 正明,副委員長:鳥居塚 崇}

人手不足や技能伝承の事情などから、製造・物流・サービス現場で高年齢者が労働に従事する機会が増えている。これに伴い、高齢労働者特有の労働災害も増えており、その防止に人間工学が役割を果たすことが期待されている。このような中、厚生労働省で「高年齢者の労働災害防止のための指針」が策定された。そこで、日本人間工学会第67回大会にて、厚生労働省安全課の官僚、企業、人間工学専門家を交えた「エイジフレンドリーな職場づくりと人間工学」に関する企画セッションを実施する。

2-13.PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇、副委員長 榎原 毅、松田 文子}

IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながら JES および BCPE-J 会員のスキルアップについて検討する。JES 理事長と BCPE-J 機構長を含め、定期的に情報交換を行い、人間工学の発展に向けた施策について検討する。

2-14. 利益相反・倫理委員会

{委員長:久保 博子}

- (1) 本学会としての利益相反規程について、昨年度作成した規程案についてパブリックコメントを聴取し、必要に応じて改訂し、規程を策定する。
- (2) 策定した利益相反規程利益相反審査申請フローを作成し、審査申請があれば審査する。
- (3) 本学会の倫理規程の再改訂について議論し、他学会の倫理規程や倫理審査の受託事業について調査した結果を参照しつつ、再改定を検討する。また、倫理指針や推奨の啓発活動を行い、遵守を支援するしくみを検討する。次年度の大会で企画セッションを実施する。
- (4) 委員会の web ページを充実させ、利益相反および倫理に関する取り組みを広報するとともに、つねに会員の意見やコメントを受け取り、委員会活動に反映する。

2-15. 人間工学研究標準化推進委員会

{委員長:小林 吉之}

人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環として JIS および ISO 等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施する委員会として、今年度は以下の活動を実施する。

- (1) JES 会員やプロジェクトで ISO や JIS 等の標準になりそうな研究に対する標準化のための作業やアドバイスによる支援および ISO や JIS への上程のための活動を推進する。
- (2) 委員会の立ち上げおよび支援内容の構築を実施する。
- (3) また、学術委員会と連携しながら、標準化の候補となる研究に取り組んでいる研究者に情報提供を行うなど、積極的に情報提供活動を実施する。

2-16. 第 67 回大会担当

{担当:横山 清子}

【開催日】2026年5月23日(土)~24(日)

【大会会場】名古屋市立大学 滝子キャンパス 対面開催

【懇親会会場】名古屋市立大学滝子キャンパス 学生会館

【内容】基調講演、人間工学製品シンポジウム、ユース会員新設準備企画、

2-17.第68回大会担当

{担当:中西 美和}

【開催日】2027年5月29日(土)~30日(日)

【大会会場】慶應義塾大学 矢上キャンパス(神奈川県横浜市)

[プロジェクト]

2-18.AMED プロジェクト

{担当:榎原 毅,大須賀 美恵子}

- ・日本医療研究開発機構(AMED)によるヘルスケア社会実装基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン(DeLiGHT プロジェクト)」に関して, 日本人間工学会は策定学会のひとつとして指針開発に協力してきた。デジタル・メンタルヘルスに関するエビデンスをレビューし, 関連 8 学会が連携して公表した指針について引き続き運営協力を継続する。併せて心の健康投資促進コンソーシアム(ウェルココ)への運営支援を継続する。指針は AMEDE-LIFE ヘルスケアナビ・ポータルサイト(<https://healthcare-service.amed.go.jp/>)および DeLiGHT 特設サイト(<https://delight.sanei.or.jp/>)にて公開されている。また, 経済産業省が現在基盤整備を進めている職域における心の健康サービス選択支援ツール「ウェルココ」と DeLiGHT プロジェクトとの連携のあり方について検討を進める。

2-19.厚労省科研プロジェクト

{担当:榎原 毅,鳥居塚 崇}

- ・令和6年度よりスタートした厚生労働科学研究費・労働安全衛生総合研究事業「陸上貨物運送業を対象とした Minds 参照型腰痛予防対策ガイドラインの策定と予防対策の普及実装の推進」の運営を引き続き支援する。
- ・第14次労働災害防止計画において, 陸上貨物運送事業の腰痛災害防止が重点目標となっており, 日本人間工学会が中心学会(JES 代表として鳥居塚崇理事長が協議会座長)となり, 関連4団体と連携して Minds 診療ガイドラインに準拠した「陸上貨物運送業の腰痛予防介入ガイドライン」を整備し, 社会へ発信する事業を推進する。
- ・主要陸上貨物運送業7団体・行政(厚生労働省)・アカデミアが集うコンソーシアム協議会を2回程度主催する。(2024年度~2026年度事業, 33,836千円)

2-20. 人間工学事典発刊プロジェクト

{委員長:鳥居塚 崇, 副委員長:榎原 毅}

・丸善出版から打診されている, 人間工学の「全体像」ならびに「展望」を広く社会へ伝えることを目的とした「人間工学事典」を発刊することを目的としている. 本事典のポイントとしては, 物事を網羅的に解説するのではなく, 特に重要かつ読者の関心が高いと思われるテーマを選び出し, 調べ物用途だけでなく「読み物」としての不可価値のある見開き完結型の中項目事典として編纂することである. 掲げたテーマ(中項目)について, ときには近隣学問も取り込みながら解説することで, 読者がその周辺知識も一緒に知ることができ, 学術的興味がさらに広がって行くようなつくりを目指す. インターネットで手軽に用語検索して得る断片知識とは異なる, 全体像をとらえつつ読む→知る→さらに調べる, という知的体験・学ぶ楽しみを喚起する百科事典とする予定である(発刊は丸善出版より 2027 年5月を予定).

2-21. ABW プロジェクト

{委員長:兵頭 啓一郎, 副委員長:福住 伸一}

(期間:2024.6~2027.2)

(1) 概要

ABW (Activity Based Working)とは, 場所や時間, 進め方などを特定せず, 働く人がその時々の自らの活動(業務や作業内容)に応じて自ら適切な作業環境を選択できるようにする, 新しい働き方である. これには, 休憩なども含まれる.

10年ほど前から働き方改革という呼び声とともに, 多くの企業がテレワーク/リモートワーク, オンライン会議の導入などを図ってきたが, マネジメント側の仕組みが追い付かず, さほど普及してこなかった. しかしながら 2020 年 3 月以降の COVID-19 パンデミックにより, 好む好まざるにかかわらず, 在宅勤務を余儀なくされ, オンライン環境での組織マネジメントが求められるようになり, 一気にこのような働き方が広がるようになってきた.

一方 ABW を適用すると 働く場所の人間工学についてこれまでの考え方を見直す必要性が指摘されている. これまでは 働く人は働く環境を提供されてきた. しかし ABW を適用すると 働く人が自ら働く場所を選択することになる. したがって, ABW を適用する場合, 働く人自身が自らの働く場所の人間工学について正しい知識を持ち, 自身の作業効率や安全性を向上させるための選択を行うことが必要となる. このような環境を実現するために, 企業は従業員が自身の健康と安全を確保しつつ, 最も効果的な働き方を選択できるよう支援する体制, 支援できる制度を整える必要がある.

本プロジェクトでは この状況を鑑み ウェルビーイングを実現するために ABW を適用する際に人間工学的に必要な要求事項を検討し 規格化を行う. なお, 本プロジェクトは, 経済産業省の標準化推進補助事業に基づいて実施する.

(2) 3 年間の目標

1) 本プロジェクトの目標

前述のように, 本プロジェクトでは, 経済産業省の標準化事業に基づいて行うため, 以下の 3 つの国際標準および JIS の開発を目標とする.

- a) 既に提案済みの技術報告書 (TR) 「ABW に関連する人間工学」の開発
- b) 新規に提案する国際標準 (IS) 「ABW に関連する人間工学の要求事項」の開発
- c) 新規に提案する国際標準 (IS) 「ABW を実施する際の人間工学的要求事項 (仮称)」の開発

2) 規格策定に向けての指標化

- a) 経済的効果: ABW の導入により企業の生産性向上を目指す。具体的には、生産性指数を定めその向上のために ABW 導入企業の生産性を定量的に評価できるような指標を定め、前年度比での向上を定量化できるようにする
- b) 社会的効果: 効果: 従業員のウェルビーイング向上を目指す。具体的には、ウェルビーイング指数の向上: ABW 導入企業の従業員の満足度を指標定め、前年度比での向上を定量化できるようにする。

(3) 提案の成果と影響

2026 年度の終了時点で、ABW の TR と IS が確立されることにより、国内外の企業における新しい働き方の定着と理解が進む。加えて JIS の策定を開始することにより 我が国での ABW の理解が深まり、正しく運用されることにより我が国企業でのウェルビーイング指数が高まることを期待している。

(4) 2026年度目標

2026年度は本事業の最終年度にあたり、今年度の目標として、ABW に関する国際標準の原案のうち1件の技術報告書 (TR) の発行、1件の国際標準 (IS) の開発を行う。また、1件の国際標準 (IS) の開発提案を行う。

1) ISO TR 9241-520 Ergonomics of human-system interaction — Part 520: Ergonomics aspect of Activity Based Working

2026年度末までには出版済みの予定である。必要に応じて残った作業を行う。

2) ISO 9241-5xx Ergonomics of human-system interaction — Part 5xx: Ergonomics requirement for Activity Based Working

IS について、当該 TC での NP 提案を実施済みの予定である。NP 投票にてコメントがあれば対応し、ICD の開発を進める。

3) ISO 9241-5xx Ergonomics of human-system interaction — Part 5xx: Ergonomics requirement for Activity Based Working implementation

IS-2について 委員会での意見をまとめ 当該 WG に WD をリリースし 議論する。議論を受け修正の必要があれば修正し 当該 SC4 に新規 NP 提案を行う。

2-22.子ども ICT プロジェクト

{委員長:柴田 隆史, 副委員長:岡田 衛}

- (1) タブレット端末や大型ディスプレイなどの ICT 機器が学校に導入されている状況を鑑み、子どもが ICT 機器を活用する上での人間工学課題を検討し、学校教員のみならず児童生徒に対しても分かりやすく人間工学の視点や重要性を伝えることを、引き続き検討する。
- (2) 第 67 回大会におけるシンポジウムや他の研究会や会議などの機会を活用して議論を深め、子どもの ICT 機器利用の在り方を検討する。

3.支部活動

3-1.北海道支部

{支部長:佐藤 健斗}

(1) 支部役員会

日時:2026年7月上旬

場所:Web開催

議題:

- ・2025年度北海道支部事業報告,2025年度決算報告
- ・2026年度北海道支部事業計画,2026年度北海道支部予算執行計画
- ・2026年度北海道支部総会の実施計画
- ・その他

(2) 2026年度支部総会

日時:2026年9月10日(予定)

場所:公立千歳科学技術大学 情報棟H101教室

議題:

- ・2025年度北海道支部事業報告,2025年度決算報告
- ・2026年度北海道支部事業計画,2026年度北海道支部予算執行計画
- ・その他

(3) 2026年度支部大会

日時:2026年9月10日(予定)

大会長:倉岡宏幸先生(公立千歳科学技術大学)

場所:公立千歳科学技術大学 情報棟H101教室

基調講演:春名 弘一先生(北海道科学大学 教授)

セッション:学生セッション,一般セッション,懇親会を対面にて開催予定

3-2.東北支部

{支部長:大橋 智樹}

(1)支部役員会

年3回の開催を予定(支部研究会時に開催)

他,必要に応じメール審議にて実施

(2)支部総会

1)日時:2026年5月上旬開催(予定)

2)場所:電子メールにて開催

3)議事:2025年度事業報告,2025年度決算報告

2026年度事業計画案,2026年度事業予算案など。

(3)支部研究会

年3回の開催(対面とオンラインのハイブリット)を予定。3回のうち仙台市と山形市で1回ずつ開催することが決まっており,残る1回は検討中である。また,東北地方において人間工学に潜在的に関心をもつ研究者等に入会を促し,会員数を増やすことを目的とした活動を検討している。

(4)その他

支部研究会では,研究者と企業人・実務家との意見交換を積極的に行う。

3-3. 関東支部

{支部長:松田 礼}

- (1) 第56回関東支部大会・第32回卒業研究発表会
 - 1)開催日:2026年11月28日(土)
 - 2)大会長:栗谷川幸代 先生(日本大学生産工学部)
 - 3)場所:日本大学生産工学部 津田沼キャンパス(千葉県習志野市)
- (2) 支部総会
 - 1)開催日:2026年11月28日(土)
 - 2)場所:日本大学生産工学部 津田沼キャンパス
 - 2)開催方法:関東支部大会時に対面で開催
- (3) 支部委員会
 - 1)開催日:年2回開催(予定)
 - 2)開催方法:1回は関東支部大会時に対面開催,他1回はWeb会議またはメール会議にて開催予定
- (4) 講演会(または見学会)
 - 1)日時:2027年3月(予定)
 - 2)場所:計画中
- (5) ニュースレターの発行
メールリストにより支部大会総会の案内,講演会の案内等を発行予定

3-4. 東海支部

{支部長:横山 清子}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
開催日時:2026年4月9日(木) 17:45-18:15
開催場所:オンライン
- (2) 支部役員会
年3~4回程度開催,必要に応じてオンラインまたはメール会議を開催予定.
- (3) 日本人間工学会東海支部2026年研究大会の開催
開催日:2026年11月7日(土)
開催場所:中京大学(名古屋市昭和区)
大会長:中京大学 宮崎 由樹 先生
- (4) 東海支部企画
人間工学測定技法講座開催 1~2回
「初学者のための測定技法」書籍執筆の検討

3-5. 関西支部

{支部長:新家 敦}

- (1) 企画・行事等
 - 1)2026年度 支部通常総会(2026年5月16日(土))
会 場:大阪公立大学 I-site なんば(大阪市浪速区)
 - 2)2025年度 優秀発表賞 表彰式(2026年度 支部通常総会終了後に開催)

- 3) 春季特別企画(2026年度 支部通常総会終了後に開催)
- 4) 人間工学異分野連携交流サロン(年3回開催予定)
人間工学を主たる業務としないものの、人間工学の知識が必要と考えている技術者を呼び込んで交流する
うち1回は日本デザイン学会第4支部と共催予定
- 5) 見学会(2026年9月,2027年3月の2回開催予定)
- 6) 2026年度日本人間工学会関西支部大会(2026年12月13日(日))
大会長: 朝尾 隆文 先生
会 場: 関西大学 千里山キャンパス
- 7) 関西デジタルヒューマン懇話会(2026年8月,2027年2月開催予定)
- 8) JES ユース会員(仮称)向け関西支部イベント(2026年12月開催予定)

(2) 会議・選挙・WG等

- 1) 2025年度会計監査(2026年4月3日(金)実施済)
会 場: 大阪公立大学 I-site なんば S2 会議室
出 席: 監事 久保博子先生、監事 小谷賢太郎先生、支部長 有馬正和先生、会計幹事 土井俊央先生、
庶務幹事代行 廣川敬康先生
 - 2) 第1回企画幹事会(2026年6月頃,オンライン開催予定)
内 容: 2026年度各種担当幹事・支部内ワーキンググループ・支部大会担当の割当
 - 3) 第2回企画幹事会(2026年9月頃,オンライン開催予定)
内 容: 2026年度日本人間工学会関西支部大会担当報告ほか
 - 4) 第3回企画幹事会(2026年12月頃,オンライン開催予定)
内 容: 優秀発表賞受賞者の選出
 - 5) 第4回企画幹事会(2027年2月頃,オンライン開催予定)
 - 6) 第1回支部大会実行委員会(2026年10月頃,関西大学 千里山キャンパス)
内 容: 支部大会会場現地調査ほか
 - 7) 第2回支部大会実行委員会(2026年12月初旬,オンライン開催予定)
内 容: 支部大会当日スケジュール確認等
 - 8) 第1回評議員会・役員会合同会議(2026年5月16日(土)支部通常総会併設)
内 容: 2025年度活動報告、2026年度活動計画等
 - 9) 第2回評議員会・役員会合同会議(2026年度 支部大会併設)
会 場: 関西大学 千里山キャンパスとオンラインの併設開催
 - 10) 2027~2028年度評議員選挙(2026年12月-2027年1月予定,オンライン投票)
内 容: 評議員の半数改選
 - 11) 第1回評議員会(2027年1月実施,オンライン審議)
内 容: メール審議: 優秀発表者の承認, 評議員選挙結果の承認
 - 12) 関西支部 Web サイト構築 WG 会議(随時開催, オンライン会議)
- その他, 必要に応じて企画幹事会・評議員会・幹事担当別の WG 会議を行う

3-6. 中国・四国支部

{支部長: 樹野 淳也}

2025年度同様に、支部代議員会の開催(1回程度) 支部理事会開催(4回程度)、第57回支部大会開催、支部大会優秀発表賞選出と表彰、支部講演会および見学会(各1~2回程度)を計画する。

3-7.九州・沖縄支部

{支部長:小崎 智照}

(1)活動計画

1)2026 年度支部役員会

- ・開催日:未定
- ・会 場:未定 (オンライン会議を予定)

2)2026 年度支部総会

- ・開催日: 2026 年 11 月 28 日 (土)
- ・会 場: 九州大学大学院医学研究院 (予定)

3)第 47 回支部大会

- ・開催日: 2026 年 11 月 28 日 (土)
- ・会 場: 九州大学大学院医学研究院 (予定)
- ・大会長: 橋口暢子 (九州大学)

4.研究部会活動

4-1.衣服人間工学部会

{部会長:高橋 佐智子}

<2022.4.1~2027.3.31>

(1)活動テーマ

2012年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行っている。今年度についても、衣服のサプライチェーンの側面から、着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の活用、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、SDGs 達成への貢献を視野に入れた研究活動・啓発活動を進めていく予定である。さらに、このような取り組みを具体化する方法の一つとして、サイズ・ジェンダー・年齢を問わないボーダーレスデザインについても考えていきたい。

(2)活動計画(方法・手段)

- 1)幹事会 Zoomやメール,対面による幹事会を開催する.
- 2)研究例会の開催
Webおよび対面により,年2回程度開催する予定である.
・8月 工場見学およびweb講演会
・2月 web講演会およびwebワークショップ

(3)期待される成果と展望

講演会,工場見学,ワークショップなどを行うことにより,グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換および研究交流の活性化が期待できる。また,講演会や対面での見学会の開催を通して,消費科学的立場から地球環境問題に対する意識の向上に貢献できると考えている。今後は,これまでの活動の成果を冊子やデジタル資料などにまとめることについても検討したい。

4-2. 医療労働関連MSDs 研究部会

{部会長:松崎 一平}

<2022.6.1~2027.3.31>

(1)活動テーマ

パーパス「すべての医療従事者を守る快適な労働環境をつくる」を実現するために,2026年度は,懇話会・総会・世話人会を通して様々な医療現場のMSDs 課題の洗い出しを行い,医療従事者,学会員,企業の組織構築を行うとともに,多様に配慮しながら新たな世話人とともに,提言書等アウトプットの設定を具体的に進める。

(2)手段・方法

1) 医療労働関連MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発

懇話会・総会を通じて,様々な医療従事者(医師,看護師,技師,理学療法士等)のMSDs 課題を抽出する。

医療と私の人間工学100Tipsを充実させて,オンデマンド教材,提言書の発刊を視野に,バックキャスト手法で中期計画を策定し実行する。

2) 医療労働関連MSDsに関する教育機会の提供(研究会の開催)

オンライン会議形式による医療MSDs 懇話会では,引き続き話題提供を呼び水に活発な議論を行い年1回の対面開催も継続を検討する。全国大会においては対面形式でMSDs 軽減のための機器体験会やワークショップ等を企画する。

・活動予定

5月23日 全国大会シンポジウム:医療労働は誰を対象に設計されてきたのか — ジェンダー視点から見た「働きにくさ」

8月21日 第8回医療MSDs 懇話会 テーマ「“姿勢を変える”を考える — 医療労働における個人と環境の戦略 —

(仮)」、対面形式にて企画中。

3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携

医療系学会、産業衛生系学会、理学療法系学会などを含む関連学会との共同企画、連携を進める。

4) 医療労働関連MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信

研究部会HPを活用して医療MSDs軽減に繋がる連携のため、大学・公設試・企業の紹介ページを新たに作成する。リレー形式の人間工学会員による教育コンテンツ(医療と私の人間工学100Tips)を継続発信する。

5) その他、本研究学会趣旨に必要と思われる諸活動の実施

安定した研究部会活動推進のため新たな世話人とともに部会員との交流も推進する。

(3)期待される成果

MSDsに関心のある研究者と問題意識を共有し、人間工学手法を学ぶ機会を広範に提供することにより、若手研究者の勧誘、関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。研究部会で知識を得た医療従事者が各医療系学会等で教育・啓発するとともに、医工連携の推進によりMSDs軽減に繋がる人間工学に基づいた医療関連機器の開発が進み、人間工学の発展および学会員の増員に寄与することが期待できる。

4-3.航空人間工学部会

{部会長:船引 浩平}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1) テーマ

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 研究例会(公開講座)の開催

日時:2026年6月19日(金)13:00-17:00(予定)

場所:野村不動産天王洲ビル2階会議室(ウィングホール)

講演:TBD

2) 施設見学会の実施

ヒューマンファクターや各企業による安全への取り組みなどを介し、学び・知見を得ることを目的に、施設見学会を計画・実施する。可能な限り、一般公開していない施設・場所を対象とする。

また、人間工学に関する基本知識の学習、他研究部会の講演、イベントへの参加なども検討する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みにも活用する。また、例会講演資料の電子化により利便性を向上させる。

4) 委員会・幹事会の開催

部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。対面式・オンライン形式の両方を活用し、効率化をはかる。

5) 部会活動条件の実施計画

学会誌への投稿、または学会の全国大会または支部大会での発表について検討、実施する。

(3) 期待される成果

例会（公開講座）及び見学会の活動を通じ、航空安全の推進に関わる官・民・学の関係者が交流する場を当部会が提供する。関係者がお互い情報を共有し、議論を行うことや、新たな人脈を構築することで航空人間工学や航空安全技術に関する動向等の知見獲得が可能となり、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものと考えている。

4-4.アーゴデザイン部会

{部会長:郷 健太郎}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)活動テーマ

2026年度は、フューチャーエクスペリエンス(FX)の確立を目指し、実践的手法と事例を通じた研究活動を展開する。また、これまで取り組んできたビジョン提案型デザイン手法との関係性を明確化し、アーゴデザインの実践を深化させる。さらに、社会環境との整合性および実現可能性を踏まえ、人間工学研究の重要性を再認識するとともに、「ビジョンと社会実装」に関する研究と議論をアーゴデザインの視点から継続的に推進する。

(2)手段・方法

1) フューチャーエクスペリエンス(FX)-WGの活動強化

フューチャーエクスペリエンス(FX)-WGの活動を、本年度もさらに強化する。部会テーマである「ビジョンと社会実装—ビジョン創出とその社会実装に向けた方法論の研究—」に関する検討を本格化し、新たな方法論の確立に向けて、ワークショップやミーティングの機会を拡充する。これにより、研究活動の深化と方法論発信の機会創出を図る。

2) フューチャーエクスペリエンス(FX)の啓発・普及活動の実施

フューチャーエクスペリエンス(FX)については、引き続き EXPERIENCE VISION の普及を目的としたイベントを開催する。また、フォーラムや研究会、ワークショップ等を通じて、「ビジョン創出とその社会実装に向けた方法論の研究」に関する活動との連携を強化する。

3) 会員が参加しやすい活動形式の実現

これまで年度末に実施してきた合宿形式の研究会について、参加者の減少が見られることから、開催形式や時期の見直しを行う。これにより、より多くの会員が参加可能な研究会の実現を目指す。また、多様な会員の研究・デザイン活動を支援する取り組みを一層充実させ、学生会員を含む新規会員の獲得を図る。さらに、次世代を担う研究者およびデザイン実務者の育成を強化する。

(3)期待される効果

アーゴデザインに関心を有する研究者および実践者と問題意識を共有し、研究開発を協働して推進することで、人間工学分野への新たな関与・参入の機会創出が期待される。特に、フューチャーエクスペリエンス(FX)に関する議論を通じて、将来の社会や環境のあり方を展望し、人間生活を包括的にデザインするための基盤を提供することが可能となる。これにより、人間工学分野に新たな知見と視座をもたらす、ひいては次世代の人間工学の基盤形成に寄与することが期待される。

(4)活動予定

4月 幹事会(幹事の役割,担当イベントの検討)

5月 FXフォーラム 於:三菱電機 横浜イノベーションスタジオ セレンディストリート,幹事会

9月 コンセプト事例発表会(幹事会併催)

11月 見学会開催

12月 幹事会

1月 アーゴデザイン関西FXフォーラム(HCD_net 京都サロン合同),幹事会

3月 2026年度研究会,総会,幹事会

4-5.海事人間工学研究部会

{部会長:村井 康二}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させる。

(2)手段・方法

1)企画セッションの提案

人間工学会の全国大会や支部大会で本研究部会が主体となった企画セッションを行い、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を行う。2026年度は支部大会で企画セッションを行う予定である。

2)見学会の開催

2026年度においては、海事関係施設の見学会を企画し、実務者との意見交換会を企画する予定である。

3)座談会の開催

海事人間工学研究部会の研究課題の一つである自動・自律化船にかかる課題等について、人間工学を専門とする研究者や技術者が討論することで、海事分野における知識・実践をメンバーに共有する。

4)幹事会の開催

本研究部会の円滑な運営を図るため、幹事会を開催する。また、コミュニケーションの頻度を増やすため、WEB会議システムも活用する。

(3)期待される効果

企画セッションや見学会・座談会の開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信する。また、研究者や技術者との連携を発展させることで、更なる海事関連研究の活性化及び課題解決を図る。

4-6.ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:井出 有紀子,青木 和夫}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)テーマ

在宅勤務を組み合わせたオフィスワークでの働き方や環境も踏まえつつ、ポストコロナ時代の働き方や定年延長や人生100年時代、多様性雇用を見据えて、働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに、知識の普及を図ることを目的とする。

(2)手段・方法

1)幹事会をメールやオンライン、対面により開催する。

2)第67回大会において企画セッションを実施する。

テーマ:「高齢者が安全に働くために」

① 高齢労働者の安全対策について

松田文子氏(大原記念労働科学研究所)

② 高齢者の転倒とその防止について

内山 靖 氏(名古屋大学)

3)人間工学専門家認定機構等と連携し、高齢者や女性の雇用・安全対策、多様な働き方を行っている事業所の見学会の実施

またはセミナーを開催する。

4) 日本人間工学会誌「人間工学」に開催の報告記事を掲載する。

(3) 期待される効果

オフィスワークの新しいあり方にフォーカスしてアウトプットすることにより、社会への発信とプレゼンス向上が期待できる。また、高齢者の働く環境に関しては、第67回大会の企画シンポジウム「高齢者が安全に働くために」で、現代における高齢者の安全対策や転倒防止についての基礎知識と実践例を改めて知ることによって、現場での実活用に関してより深い議論を期待できる。

4-7. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

<2025.4.1~2030.3.31>

(1) 2026 年度研究部会テーマ

- 1) 今あるデータを活用した人間工学
- 2) 「+人間工学」活動

(2) 活動内容(手段・方法)

- 1) 年間を通じて幹事間の情報交流を主に電子メールを用いて行う。
- 2) 年3回の講演会・談話会・勉強会等をオンラインにて開催する。
- 3) 研究部会活動の情報発信を積極的に行い、部会員の拡大を図る。

(3) 期待される成果

- 1) データサイエンティスト他、ビッグデータを扱う人材は増加している。マーケティングやモノ作りなどで、データの解析には人間の特性を知る必要があることが多いため、それら研究者・実践者に気づきと人間工学の知識を加える、「+人間工学」活動を継続し、人間工学の普及に貢献する。(継続)
- 2) これまでの活動で得られたビッグデータの活用事例のWebサイト(ergonomics.jp)への開示を行い、社会への人間工学の浸透を図る。
- 3) 研究部会主催の講演会・懇話会・勉強会について、部会員登録を必須とすることで積極的な部会員増を図る。(部会費・入会費無料)
- 4) Web情報発信に一部研究部会員専用エリアを設けることで、関心者の部会員化を図る。

4-8. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長:石原 正規}

<2026.4.1~2031.3.31>

(1) テーマ

2026 年度は以下の2点をテーマとする。

- 1) 感性情報処理および官能評価に関わる諸問題を多角的に取り上げ、研究者・デザイナー・職人・熟練者間の情報交換と研究の活性化、ならびに研究内容の深化に資する機会を提供する。また、本領域における若手研究者および実務家・設計者の育成を図る。
- 2) 基礎領域の学習を通じて、人間の知覚・認知のメカニズムおよび機能的特徴への理解を深めるとともに、それらが行動とどのように関係しているかについての理解を促進する。さらに、実験心理学および行動科学の視点から、環境への適応に関わる諸問題の理解と解決に資する機会を提供し、若手研究者および実践者の育成を図る。

(2)手段・方法

感性情報処理および官能評価の基盤となる、人間の感覚・知覚・感情・認知・行動等の諸特性、ならびにそれらの測定・評価方法や数理モデル等に関する研究成果、さらに製品・サービス等の開発成果について、先端的かつ独創的な研究を紹介する。これらに加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会、関連する研究・開発施設や工房等の見学会を、必要に応じて企画・実施する。これらの活動を通じて、研究者と実務家・設計者の相互交流および情報交換を促進するとともに、双方の研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない具体的かつ有益なアウトプットの創出機会を支援する。

(3)期待される成果

感性情報処理および官能評価に関わる研究者が、関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法に触れ、刺激を受ける機会および学習機会を広く提供することにより、特に若手研究者の裾野の拡大や関連領域との交流の活性化が期待される。また、研究成果の実用化に伴う多様な困難や課題について相互に共有・議論する機会を提供・支援することで、人間工学のさらなる発展に資することが期待される。

以上の取り組みは、人間工学の実践における人間理解の拡大および深化につながるものと考えられる。さらに、その活動過程において、これまで職人や熟練者の職能・技能として継承されてきたものづくりのノウハウを技術化・可視化し、広く社会に提案・還元することで、従来の研究手法や体験、ものづくりに新たな価値（例えば感性価値や経験価値）を付加することが可能となる。

4-9.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

(1) 本会の目的

多様な分野の研究者が集い、学生や若手研究者にとっての最初の発表の場（特に日本人間工学会全国大会〔毎年6月開催〕や各地方支部大会に先立つ萌芽的研究段階での発表）として定評のある本会は、四半世紀を大きく超え、本年度で35年目を迎えた。人間工学をシステム論的視点から研究・議論することを目的に、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会を中核として発足した本部会は、近年では全国各地から大学関係者や企業研究者の参加を得て、医学・工学にとどまらず人文科学にまで及ぶ幅広い分野の研究者が集う場へと発展している。こうした学際的交流を通じて活発な議論が展開される本大会は、年々その意義を高めている。

加えて、AI技術の急速な進展により、人と人工物の関係は大きな転換期を迎えている。知的作業を代替・拡張するシステムの普及は、人間の能力を拡張する一方で、不安や倫理的課題といった新たな問題も顕在化させている。今後は、人がシステムを一方向的に制御するという従来の枠組みを超え、双方の特性を相補的に活かした共生関係を構築する視点が不可欠である。とりわけ、介護・医療・福祉分野においては、人と共生するシステムやロボットの活用を通じて、現場課題の解決と新たな価値創出が期待される。同時に、学習するシステムにおける責任の所在や、人の感情・痛みへの理解といった本質的課題についても、継続的な議論が求められる。

本部会は、このような時代的要請に応える議論の場としての役割を担い、今後もより活発な発表と交流の機会を提供すべく、次回大会（第35回システム大会）の企画を進めている。

(2)活動の内容

第34回システム大会（2025年度〔令和7年度〕、神奈川工科大学主催）は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式にて開催され、2日間にわたり延べ100名を超える参加者を集めるなど、極めて盛況であった。小規模学会の特性を活かし、発表20分、質疑応答10分という十分な時間配分を確保した発表形式は、深く活発な議論

を可能にし、参加者から高い評価を得た。

今後も本大会を通じて、学生および若手研究者の人間工学への関心を高め、日本人間工学会への入会促進につなげていく所存である。現在、次期大会（第35回システム大会、主催校未定）の開催に向け、大学教員を中心とした幹事会を年数回開催する計画であり、さらなる充実に向けた準備を進めている。

一般社団法人日本人間工学会2026年度 委員会/担当 プロジェクト 一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	申 紅仙、山田クリス孝介	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	吉村 健志、中川 千鶴	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	下村 義弘、松岡 敏生	HPの運用推進、GPDBによる実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	村木 里志、笠松 慶子、近井 学	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	小谷 賢太郎、Loh Ping Yeap	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	小林 吉之、横井 孝志	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	鳥居塚 崇	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
学術委員会	狩川 大輔、庄司 直人	日本学術会議との連携、科研費の細目要望
人間工学専門家認定機構	松田 文子、仲谷 尚郁	認定試験・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
若手支援委員会	齋藤 誠二、土井 俊央	学生や若手が学会活動に継続的に関わる活動や枠組みを検討
新会員制度設計委員会	前田 佳孝、鳥居塚 崇	学会における会員層の拡大および将来世代の参画促進を目的として、新たな会員制度の設計および運用体制の構築を検討する
企業活動推進委員会	境 薫、藤岡 英二	企業活動や産学連携プロジェクトの見える化、活性化を検討、セミナー等の企画・実施
普及委員会	松崎 一平、和田 一成、倉岡 宏幸	人間工学の普及、浸透を目的とした、社会向け情報発信やセミナー等の企画・実施
戦略・将来構想委員会	持丸 正明	産業変化に応じた人間工学の役割の検討および学会や行政に向けたその情報発信
PSE 委員会	鳥居塚 崇、榎原 毅、松田 文子	IEA 改訂コアコンピテンシーに基づき、JES と BCPE-J が連携しながら人間工学の教育、普及、実践のサイクルを確立することを推進
利益相反・倫理委員会	久保 博子	利益相反に関する規程の整備ならびに規程に基づく運用／当学会の倫理指針について国の指針と照合させるべく検討
人間工学研究標準化推進委員会	小林 吉之	標準化活動の枠組みを活用した、JES 会員が実施する研究の社会実装の促進および支援
第 67 回大会担当	横山 清子	2026 年 5 月 23～24 日に大会開催
第 68 回大会担当	中西 美和	2027 年 5 月 29～30 日に大会開催

プロジェクト		
AMED	榎原 毅、大須賀 美恵子	8学会合同によるデジタルメンタルヘルスの科学的知見の整備事業
厚労省科研	榎原 毅、鳥居塚 崇	5 学会・研究会連携による陸上貨物運送業の腰痛予防ガイドラインの整備事業
人間工学事典発刊	鳥居塚 崇、榎原 毅	丸善出版から打診されている、「人間工学事典」発刊(企画,執筆,編集,発刊準備)
ABW	兵頭 啓一郎、福住 伸一	ABW 適用の際の人間工学的見地からの要求事項に関する検討および規格化
こども ICT	柴田 隆史、岡田 衛	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備